

カンボジアの農村における社会経済状況 — シェムリアップ州タットレイ村の事例 —

山 川 貴 裕

要 約

カンボジア北西部に位置するシェムリアップ州は、内包する世界遺産アンコール遺跡への観光客の増加により、カンボジアにおける観光拠点都市として発展を遂げている。その一方で、州人口の半数以上は貧困に陥っており、特に農村部の状況は厳しい。本稿ではシェムリアップ州における農村の現状を把握し、課題を見つけるために Tatravay 村にて調査を行った。

本稿は、5つのセクションで構成されている。セクション1では、シェムリアップ州の社会経済状況から、当州の農村部が深刻な貧困状態に直面していることを明らかにした。次に、カンボジアの農村調査研究に関しては天川 (2004) 及び Lwin (2004) を、貧困ラインの設定に関してはカンボジア貧困プロファイル及び World Bank (2009) 等の先行研究の紹介を、セクション2で行った。セクション3ではアンケート質問票及び調査時に起こり得るバイアスの排除方法と Tatravay 村の概要を述べている。調査分析とその結果に関しては、セクション4と5にまとめている。

主な結果としては、以下の点が挙げられる。① Tatravay 村の主要な作物は、米であるが、その規模は小規模である場合が多く、かつ生産性も低い。②米作が重要な産業となっている点は多くの世帯に共通する特徴であるが、当産業が十分な現金収入につながっておらず、生産性向上にかかる金銭的余裕がある世帯は少ない。③世帯収入は、農外収入（賃金収入等）を多く獲得している世帯ほど高い傾向にある。④女性世帯主の場合、農外収入を得る機会自体も少ない。⑤世帯収入の上位グループは下位グループと比べ、生産年齢人口や耐久消費財の所有数、英語習得率、教育費、衣料費等の点においても望ましい結果となっており、下位グループは多くの面で不利な状況に留まっている。

最後に提言として、農外収入を得る職に就くことが出来ない低所得世帯の経済的脆弱性を考慮すれば、米作生産性の上昇といった農業技術の向上が必要であり、そのための農民への教育の機会を作ることが重要であると結論付けた。

はじめに

長期に渡って国内の混乱が続いていたカンボジアでは、1987 年¹⁾ よりようやく和平に向けた交渉²⁾ がなされるようになり、徐々に国内の社会情勢に安定が見られるようになった。シェムリアップ州は、1998 年に海外諸都市との国際線直行便が開通し始めて以降、観光客が増加し続け、カンボジアにおける観光の拠点都市として発展することとなった。今やシェムリアップ州には、アンコール遺跡群を目的とした観光客向けに、様々なレストランやホテル、ゲストハウス等が建設されている。また、市街地には手工芸品等を販売する土産品店、外国人向けの病院、博物館等も建設されており、市街地や遺跡界限では非常に多くの観光客がバイクタクシーやトゥクトゥク³⁾ を利用している姿が見られる。

このような観光業の発展の一方で、州人口の大部分は農村部に居住しており、カンボジアの中でも貧しい州の一つという現実もある。ホテルやゲストハウスがある市街地はシェムリアップ州の一部であり、州の中心を通る国道 6 号線を外れた農村の多くでは、天水に頼った昔ながらの農業が行われている。土着の技術に基づく非農業活動（シルク織り、革製品、石の彫刻等）も行われているが、その割合は高くない。

本稿の目的は、シェムリアップ州内の農村の調査結果を用いて、農村の社会経済状況及び農村開発に関する課題を明確にすることである。故に本稿では、実際の農業従事者の割合や各職業の世帯収入に与える影響、米作生産性及び生産量と推定消費量とのギャップ、世帯消費構造、貧困・不平等状況、世帯主・生産年齢人口・学齢年齢人口・若年層の状況、世帯の保有資産・借金等の分析を行い、調査村を多角的に捉えることに尽力する。

1 シェムリアップ州の概要

シェムリアップ州⁴⁾ は首都プノンペンから 300km 程度北上した場所に位置する（図 1）。州

* 筆者は 2010 年 4 月より 2011 年 4 月の約 1 年間、シェムリアップ州アンコール（Angkor）大学内のアンコール大学経済開発研究所（Angkor University Research Center for Economic Development: AURCED）にて副所長を務めており、この期間に AURCED が依頼されて行った調査への参加或いはアドバイスを行っていた。また、タットレイ村の調査に関して多大な協力をして下さったシェムリアップ州アンコール大学、ユン・リネ（Yun Linne）副学長及び AURCED のスタッフにここで感謝の意を表す。

1) この年に第一回パリ会談が開かれ、フン・セン首相とシアヌーク大統領との初顔合わせが実現した。
2) ベトナムの支援を受けたカンブチア人民共和国と反ベトナム派により結成された民主カンボジア連合政府とが対立しており、この対立構造は 1991 年のパリ和平協定締結まで継続した。
3) これはタイ等で見られるような三輪タクシーとは異なり、オートバイに客が乗れるような荷台を接続したものである。

4) シェムリアップ州のデータに関しては、Statistical Yearbook of Cambodia 2011 及び General Population Census of Cambodia 2008 - National Report on Final Census Results- を参照。

カンボジアの農村における社会経済状況

の南側は東南アジア最大の湖であるトンレサップ（Tonle Sap）湖に隣接しており、州の面積は 10,299km²である。カンボジア全体の国土面積の約 5.7%の割合を占めており、全 24 の市・州の内 9 番目の広さを持っている。12 の区と約 100 のコミューン、900 程度の村を内包しており、大きな分類としてはトンレサップ湖地域に属している。幹線道路は州全体の 3 分の 2 をカバーしているが、遠隔地への通行は制限される場合もあり、特に雨季にはこれら地域へのアクセスは難しい状態となる。州の人口は 1998 年の 69 万 6,164 人から 2008 年には 89 万 6,443 人へと増加しており、カンボジアの中でも 6 番目に多く、カンボジア総人口の約 6.7%を占めている。人口の増加と共に人口密度も高くなっており、2008 年時点の 1km²当たりの人口密度は 87 人と、全国平均の 75 人よりも高い。総世帯数は 18 万 743 世帯で平均世帯数は 4.9 人である⁵⁾。カンボジア全体の傾向と同様に、人口の大部分は農村に居住している。2008 年時点で、農村部人口の 72 万 2,178 人に対し、都市部人口は 17 万 4,265 人となっており、約 80.6%が農村部に居住している。しかし、1998 年から 2008 年までの農村部人口の平均成長率は約 2.0%であるのに対し、同期間の都市部人口の平均成長率は約 5.3%であることから、都市化が進んでいると指摘できる。年齢層別には 2008 年時点で、0 歳から 14 歳が約 36.0%、15 歳から 49 歳が約 53.9%となっており、カンボジア全体と同様⁶⁾に、シェムリアップ州においても若い人口の割合が大部分を占めている。

図 1 シェムリアップ州の位置



出所) 白地図、世界地図、日本地図が無料【白地図専門店】より作成。

5) General Population Census of Cambodia 2008 - Provisional Population Totals-

6) カンボジア全体における 0 歳から 14 歳の割合は約 33.7%。15 歳から 49 歳は約 53.4%である。

宗教は約 99.7%が仏教を信仰しており、この状況もカンボジア全体（96.9%）とあまり変わらない。一般識字率は約 71.2%、成人識字率は約 68.7%であり⁷⁾、カンボジア全体と比較すると（それぞれ約 78.4%、約 77.6%）、成人識字率に関しては特に低くなっている。

産業構造を表す表 1 から分かるように、シェムリアップ州では第一次産業従事者が大部分を占めている。しかし、1998 年と 2008 年を比較すると第一次産業のシェア率は 82.4%から 73.0%へと減少する一方で、第二次産業及び第三次産業の数値は上昇している。特に観光業を中心とした第三次産業の値が 20.8%にまで達していることが特徴的である。

表 1 シェムリアップ州における産業別就業者割合（%）

	第一次	第二次	第三次
1998年	82.4	2.4	15.1
2008年	73.0	6.2	20.8

出所) General Population Census of Cambodia 2008 - National Report on Final
Census Results- より作成。

家屋の様相は、都市部ではアパート形式の建物が多くなっているが、農村部では木材や藁等を用いた高床式住居が多く、環境に応じた生活を送っている。飲料水の供給源は主に井戸である。水道が通っているのは都市部のわずか 5.7%程度に過ぎず、掘抜井戸及び堀井戸を利用している割合は合わせて 8 割以上にもなる。雨水或いは泉、川等を利用している割合は、カンボジア平均値よりかなり低く⁸⁾、比較的安全な水の供給源を確保している世帯が多いことが分かる。しかし、農村部においては、飲料水供給源が住居から離れた場所にある世帯割合が約 40.0%と高くなっており、水を運搬する作業が必要であることが予想される。生活で利用する光源に関しては、電気供給を利用しているのは約 20.1%であるが、この値は 1998 年の約 7.6%から大きく上昇しており、これは都市開発によるものであると予想できる。しかし、農村部において電気供給を利用できる世帯はほとんど存在しない。最も重要な光源は灯油であり、約 57.9%が利用しているが、そのシェア率は減少傾向にある⁹⁾。一方で、バッテリーのシェア率は

7) 2008 年時点。一般識字率は 7 歳以上、成人識字率は 15 歳以上の人口が対象となっている。

8) 2008 年時点で、シェムリアップ州における雨水利用割合は約 0.3%、泉・川等の利用割合は約 9.9%であるのに対し、カンボジア全体の値はそれぞれ約 1.0%、約 23.1%である。

9) 1998 年時点では約 88.8%であった。

カンボジアの農村における社会経済状況

約 18.4%と上昇している。トイレの設置率は約 27.1%とそれほど浸透していない。特に、農村部では住居の裏に林があり、設置していなくとも不便でないことが多いという事情が影響していると考えられる。トイレを設置しない場合、住民の衛生状況に深刻な影響を与えることがあるため、農村部においても設置を急がせる必要がある。調理用で用いる燃料に関しては、約 86.4%と圧倒的に薪のシェア率が高く、炭及び灯油の割合は減少している。LP ガスや電力を使う世帯は未だに少数であり、燃料は皆無であると回答している世帯も約 0.3%存在する。

表 2 カンボジアにおける地域別貧困者比率 (2004、%)

地域	都市部	農村部	全体
プノンペン	1.1	8.9	4.6
平野部	13.7	32.9	32.1
トンレサップ部	28.2	45.4	42.8
海岸部	20.4	30.1	26.8
高原／山岳部	32.6	56.3	52.0
カンボジア全体	17.6	37.8	34.7

出所) A Poverty Profile of Cambodia 2004 より作成。

注) 1日一人当たりの貧困ラインは地域別に3つ設定されている。プノンペン、その他都市部、農村部の3つであり、それぞれプノンペンが2,351リエル (約0.59ドル)、その他都市部が1,952 リエル (約 0.49 ドル)、農村部が1,753 リエル (約 0.44 ドル)である。1 ドル = 4,000 リエルとして換算している

また、シェムリアップ州の貧困者比率は約 51.8%と半数以上が貧困に陥っている¹⁰⁾。この値はコンボンスプー (Kampong Speu) 州 (約 57.2%)、コンボントム (Kampong Thom) 州 (約 52.4%)に次いで3 番目に高い数値である。貧困層の貧困ラインからの乖離度を示す貧困ギャップ率及び貧困の重度を示す二乗貧困ギャップ率¹¹⁾に関しては、それぞれ約 17.3%、約 7.5%とカンボジア全 24 の市・州の中で最も悪い値となっている。貧困者数の多さに加え、貧困ラインからの乖離も大きいため、シェムリアップ州にて貧困に陥っている人々の経済状況は深刻であることが読み取れる。首都プノンペンや海岸部と比べ、シェムリアップ州が属するトンレサッ

10) A Poverty Profile of Cambodia 2004 を参照。カンボジア計画省の発行する公式な貧困プロファイルは、これが最新版である。

11) 貧困ギャップ及び二乗貧困ギャップに関しては、Foster, Greer, & Thorbecke (1984) を参照。

ブ部¹²⁾は平均して貧困者比率が高く、人口の4割以上が貧困ライン以下の生活水準となっている(表2)。いずれの地域においても都市部より農村部の数値が高い。トンレサップ部農村部の数値は45.4%と他地域と比較してもかなり高く、貧困問題が農村部においてより深刻な状況であることが分かる。

2 先行研究

カンボジアにおける農村研究としてまず挙げられるのは、デルヴェール(2002)である。デルヴェールは1950年代に行った調査を基に分析を行っており、経済状況のみならず、文化・社会・地誌・自然等を詳細に記述している。また、天川(2004)はコンポンスプー(Kampong Spueu)州にて農村調査を行っている。対象地域内にある18の村の内、9つを無作為抽出した後、それぞれにつき15世帯を無作為抽出した結果、合計135世帯を標本として選定している。調査結果として、収入の程度に差があったとしても、主要産業である米作とヤシ砂糖生産だけでなく、多くの世帯は多数の農外活動にも従事しており農村における収入源は多様であることや、高収入層ほど収入に占める農業関連収入の割合は低くいが、農業関連収入も農外収入も低所得層より多い傾向にあることを示している。調査対象地域がプノンペンに近い州であるため、縫製工場勤務による定期的な所得を得ている世帯も多く¹³⁾、米作収入は多くとも世帯総収入の半分を超えることがないという結果であるが、天川はこれは、「米作が農村居住世帯にとって瑣末な活動になっていることを意味しない(天川 2004、p.366)」と指摘している。なぜなら米作は雨季の期間に確実に一定の就労機会を提供できるため、雇用の安定性を世帯にもたらしめているからである。

天川の調査は、雨季時期におけるメコン川やトンレサップ湖の急激な増水の影響をそれほど受けない地域を選択している。これが今回の調査と異なる点である。

カンボジアにおける手工芸産業に関する研究としては、Lwin(2011)が挙げられる。Lwinはシェムリアップ州にて農村調査を行い、調査村内で行われているラタン産業¹⁴⁾での雇用と所得の現状を分析し、当産業の開発により村内の貧困削減を達成することが可能であることを指

12) トンレサップ部にはシェムリアップ州の他に、バンテイメンチェイ(Banteay Meanchey)州、バットタンバン(Battambang)州、コンボントム州、コンボンチュナン(Kampong Chhnang)州、ポーサット(Pousat)州の5つが含まれる。

13) カンボジアにおける縫製業は、1996年にアメリカから最恵国待遇を給与されて以降、多くの企業がアメリカ向け輸出を目的として進出してきており、その生産拠点が首都プノンペンである。縫製業はカンボジアの経済発展における牽引産業となっている。

14) 籐を材料とした籠や箱等の小型の商品を生産している。

カンボジアの農村における社会経済状況

摘している。調査対象村の全 116 世帯中、ラタン製品生産を行っている 80 世帯を標本として選択している。ラタン産業従事者のほとんどは女性であり、47.6%は読み書きができる或いは小学校程度の教育しか受けておらず、読み書きができない割合は 37.4%となっている。また、約 96.3%が母国語であるクメール語しか話せないという状況にある。ラタン製品の価格は決して高くはないため、当産業から得る各世帯の所得額もそれほど高くないが、出稼ぎ労働をすることなく世帯内での労働が可能なことや女性の就業が可能ことから、農村地域においては非常に重要な産業と捉えることができるであろう。

カンボジア貧困プロファイル（A Poverty Profile of Cambodia 2004（2006））では、カンボジア社会経済調査（Cambodia Socio-Economic Survey: CSES）を用いた貧困ラインの設定やカンボジア全体の貧困指数の推計を行っている。市・州別の貧困者率、貧困ギャップ率、二乗貧困ギャップ率も計算しており、貧困問題の解決には多面的な取り組みを提供することが重要であると述べている。

また、World Bank(2009)では、CSESを用いてカンボジアの貧困状況を経済的及び非経済的要因から分析している。カンボジア全体、プノンペン、その他都市部、農村部の4つに地域を分けて貧困状況の推移を示しており、2004年に比べ2007年には全ての地域において貧困者数の削減が見られることを明らかにしている。一方で、同期間の不平等度に関して、ジニ係数を用いて測定した結果、プノンペンでは数値の改善が見られるが、その他の地域（その他都市部、農村部、カンボジア全体）においてはむしろ悪化していることを述べている。

カンボジア政府及びカンボジア計画省（Ministry of Planning: MOP）はUNDPと提携し、1997年よりカンボジア人間開発報告書（Cambodia Human Development Report: CHDR）を製作しており、人間開発指数（Human Development Index: HDI）を中心としてカンボジアにおける人間開発の状態を測定している。1999年度版のCHDR¹⁵⁾ではカンボジア開発における農村の役割をテーマに、農村の標本調査を行い、村ごとの生活状況や土地所有状況、経済基盤状況、教育状況等、多様な側面からカンボジア農村の現状を分析している。また、村は国の基本的要素であり、これを排除して経済発展は果たされるべきではないと指摘している。

World Bank（2009）やCHDRでは、カンボジア全体或いは州別の分析を行っているが、特定の農村に焦点を合わせた分析は行われていない。一国全体の視点に立った農村開発を論じる際にはこれらの研究が重要となる。しかし、各農村が抱える問題はそれぞれ異なるため特定の農村の開発を促すための対策はそれぞれ異なるという事情がある。また、その他の研究でもシェ

15) Cambodia Human Development Report 1999: Village Economy and Development.

ムリアップ州における農村の生活状況に関する分析は見られない。故に本研究では、筆者自らシェムリアップ州の農村に赴き、農村の状況に焦点を当てた調査分析を行った。

3 調査及び調査村の概要

調査内容及び調査対象地域は、今回の調査に先立つシェムリアップ州内での数回の農村調査¹⁶⁾及びシェムリアップ州で行われたその他の調査に基づき決定した。調査に使用した質問票は、CSES 2003/04 のアンケート質問票¹⁷⁾に基づき作成したものを基本とし、前回までの調査を踏まえ、より農村の社会経済状況の把握ができる質問項目を加えて作成した¹⁸⁾。調査時に起こり得るバイアス¹⁹⁾に関しては、可能な限り排除するように努めた。基本的に筆者及び調査員は対象村までは車で移動となるため、対象となる村は舗装された道路からそれほど離れていない地域から選択することになった。故に、選択し得る村の数は限定されるため、対象村の選択においてバイアスが生じていることは否定できない。しかし、発展途上国においては、農村毎に主要産業や世帯状況に大きな差異が生じている恐れがあるため、無作為に対象村を選択することは有効でない可能性が高い。そのため、今回の調査では事前に村長へのインタビューを行い、選択可能な村の中から調査目的に適した村を選択した。村における権力者だけを調査するといった接触する相手に関するバイアスが生じないように、村の全世帯を訪問し調査した。また、9月のみの調査であることから、季節的なバイアスが存在する恐れがあった。このため、米等の農作物の収穫高は1年間の総量を、教育費、衣料費、医療費等の項目は年間分を求め、或いは各回答からの推計を行った。さらに、調査員に関するバイアスが生じることにも考慮した。所得や貯蓄、借金額等は非常に答えづらい質問であると思われるが、調査員には根気強く質問してくれるようお願いし、データを収集した。個人の調査という性質上、期間や費用にも限界があり、完全にバイアスを取り除くことはできなかったが、可能な限りバイアスの排除

16) 最初の調査は2008年12月19日から23日の5日間でシェムリアップ州内の8つの村を選択して行った。この調査目的は、観光業の発展の目覚ましいシェムリアップ州内の、最も観光客が訪問するアンコール遺跡群周辺の農村において、観光客の増加による農村生活への顕著な影響が見られるのかを検証することであった。そのために観光客が遺跡見学で巡る道沿い及び観光客向けのレストラン経営や土産販売を行っている村を3つ、それに対し有名な遺跡郡及びシェムリアップ市街地から離れており観光客が訪れることがほとんどない村を5つ選択し、それぞれの生活レベルの比較を行った（Yamakawa, 2011）。2回目の調査は2011年12月22日から25日の4日間でシェムリアップ州内の、アンコール遺跡群から見て南西に位置するブラユース（Bra Youth）村において行った。この調査の目的は、村内の全世帯を対象として当村内の大部分の世帯が行っているラタン産業の現状や農村部の生活状況の分析を行うことであった（Yamakawa, 2012）。

17) CSES 2003/04 の内容に関しては A Poverty Profile of Cambodia 2004 を参照。

18) 使用した質問票は付録として文末に記載している。

19) バイアスに関しては、チェンバース（1995a, 1995b）を参考。

カンボジアの農村における社会経済状況

を行うことはできたと考えられる。

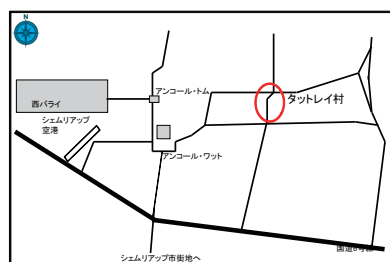
今回の調査は、村の世帯の生活水準を詳細に測るために、できるだけ多側面からの項目を質問した。調査データの精度に関しては、所得、消費を含めて多くの項目が回答者の記憶に依存するデータである点に注意が必要であり、全て正確なデータを入手できたということとはできない。しかし、発展途上国における農村世帯内の社会経済状況に関する詳細な公式情報はそもそも存在しないため、今回の調査分析も有意義であると考ええる。

調査期間は2012年9月3日から6日の4日間である。調査はアンコール大学の学生10人の協力の下、村内全世帯を対象に行った。調査員が各世帯を訪問し、世帯主或いは世帯の状況を把握している世帯メンバーへのインタビューをクメール語で行い、質問票には英語で記入するという形態とした。そのため、調査員には英語が得意な学生を採用した。調査期間中は毎朝、調査方法の説明や調査に関する質問に回答するミーティングを行い、調査後は当日収集した調査結果の確認をして、質問票や調査方法に不備が見つければ変更し、調査方法の改善に努めた。

調査対象として選定したのは、シェムリアップ²⁰⁾州バンテアイ・スレイ (Banteay Srey)²¹⁾ 区 (district) プレアダック (Preah Dak)²²⁾ コミューン内のタットレイ (Tatray) 村である。

調査対象としてシェムリアップ州を選択した理由は、前述したように当州は貧困問題が深刻な状態にある州の一つであり、当州における農村の現状を把握し課題を見つけることはカンボジアにおける農村の開発にとって非常に重要であると考えたためである。また、タットレイ村に関しては以下に述べるように、この村がカンボジアの農村が持つ典型的な特徴を備えていると考えられるために選択した。

図2 タットレイ村の位置



出所) シェムリアップの地図より筆者作成。

20) シェムリアップ州の総世帯数は18万743世帯、総人口89万6,443人である。その内農村部の総世帯数は14万6,026世帯、総人口72万2,178人である (2008年、General Population Census of Cambodia 2008 - National Report on Final Census Results-)。

21) バンテアイ・スレイ区の総世帯数は8,359世帯、総人口4万2,773人である (2008年、General Population Census of Cambodia 2008 - National Report on Final Census Results-)。

22) プレアダックコミューンの総世帯数は1,575世帯、総人口8,085人である (2008年、General Population Census of Cambodia 2008 - National Report on Final Census Results-)。

カンボジアは国際河川であるメコン川の流水域にあり、雨季には水量が大幅に増加する。その水がトンレサップ川を逆流しトンレサップ湖の水域を広げるが、この水の季節的増減が、カンボジアにおける風土の特徴の一つである。その影響を受ける土地であるかどうかによって農業のスタイルも大きく変わるといえる。今回、調査の対象となったタットレイ村は、図2で示すようにアンコール遺跡群から東の方に位置し、雨季の増水の影響を多大に受ける地域内にある。ブレアダックコミュニティ内の6人の村長に対するインタビュー結果²³⁾によると、年間を通じて通行可能な道路が村内に存在するかどうかの質問に対し、半数の3人が存在しないと回答した。これらの村では雨季の水位が高くなる時期には、村内の世帯間を訪問することも難しく、小学校への通学が不可能になる事態も起こっている。タットレイ村は村内に通行可能な道路があると回答しているが、水位の季節的な増減の影響を受ける地域であることは確実である。故に、年毎の雨量の変化が農業の成果にも大きく影響していると考えられる。

その他のタットレイ村の概要をまとめたものが表3である。

表3 タットレイ村の概要

1. 総世帯数	139
2. 平均世帯人数（人）	4.9
3. 総人口（人）	733
4. 平均寿命（歳）	80
5. 村内の主要産業 米作（%）	85 - 90
6. シェムリアップ市街までの距離（km）	11
7. ローカルマーケットまでの距離（km）	2
8. 小学校までの距離（km）	2
9. 中学校までの距離（km）	2

出所）筆者作成。

注）2は実際に調査を行って得たデータを基に算出したものであり、その他のデータは村長へのインタビューから得たものである。村長のインタビュー時に回答された総世帯数及び総人口は139世帯、733人であった。今回の調査はタットレイ村内全世帯の調査を目的とし、調査員には留守の世帯があった場合には調査期間中に繰り返し訪問して調査を行うように依頼していたが、一度も接触できなかった世帯やインタビューができなかった世帯があったため、全世帯は132世帯となった。故に、本稿で用いる場合の総世帯数は132世帯、総人口は641人として計算している。

23) 調査村の概要把握のため、タットレイ村長、ニスボン（Nith Pon）氏の他、同コミュニティ内6つの村の各村長へのインタビュー調査を行った。

カンボジアの農村における社会経済状況

村からシェムリアップ市街までは11km程度の距離であるが、村内には観光スポットもないためアンコール遺跡群観光が目的である観光客も村内にはほとんど訪問しない。村の主要産業は農業であり、85～90%が米を生産している。小学校と中学校及び病院（或いはクリニック、メディカルセンター）は村内にはないが、コミュニン内の約2kmの距離にある。村内では電気供給・水道・ガス供給の使用はほとんど行われていない。輸送手段として用いられているのは自転車、次いでバイクが多く、車を所有している世帯は僅かである。村内での水供給の主要な手段は井戸であり、ポンプ式井戸を利用できる世帯は全体の40.0%程度である。また、一般的な食事回数は1日2回（昼食及び夕食）である。トイレ設置の普及率は15.2%程度とシェムリアップ州の数値より低いが、過去5年間における幼児死亡や妊産婦死亡の発生はゼロであり、村内の病気に関する状況は改善の傾向にある。村長の選択は選挙により決定し、選挙は5年ごとに行われている。

村長への事前調査の結果、把握できたタットレイ村のこのような特徴は、多くのカンボジア農村が持つ一般的な特徴と重なる。そのため今回の調査対象村として適していると考えられる。

4 分析

本稿では、経済学的・社会的視点からの分析を行うために基本的な統計方法を用いる。特に貧困・不平等状況の把握に関しては、分散、貧困率、貧困ギャップ率、ジニ係数等を用いて分析する。また、1村の調査データのみでは整合性の高い結果が得られない恐れがあるため、計量分析は利用しない。世帯全体の収入階層別の分析²⁴⁾に関しては、収入構造や消費構造、年齢層別の教育状況等に関して階層毎にどのような差異が生じているのかを明確にする。

表4 農地所有面積の分布

面積 (m ²)	世帯数	割合 (%)
0	15	11.4
0<5,000	21	15.9
5,000<10,000	23	17.4
10,000<15,000	34	25.8
15,000<20,000	11	8.3
20,000<25,000	21	15.9
25,000<30,000	0	0.0
30,000<35,000	2	1.5
35,000<40,000	1	0.8
40,000以上	4	3.0
	132	100.0

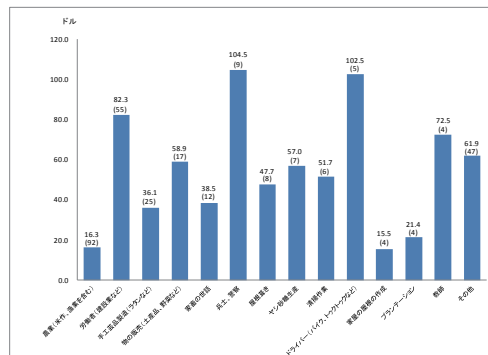
出所) 筆者作成。

24) 世帯収入の階層別分析方法に関しては天川（2004）を参考にした。

はじめに、各世帯の農地の所有面積に関する結果であるが、平均値が12,574 m²（約1.26ヘクタール）、中央値が10,000m²である。表4ではその分布を表示している。全132世帯中全く農地を所有していない世帯は15世帯、10,000m²未満の農地しか所有していない世帯は全体の44.7%、15,000m²未満では70.5%となっている。当村の大部分は小規模農地しか所有しておらず、30,000m²以上の大規模の農地を所有している世帯はわずか7世帯という結果であった。農地の使用方法に関しては、小規模でも米作を行っている世帯数は115世帯（87.1%）で、当村において米作は主要な産業となっていることが分かる。

図3はタットレイ村における業種別平均月当たり所得額を表している。これによると、農業に従事している人数は92人と最も多いにもかかわらず、農業の平均値は16.3ドルで最も低いことが分かる。次いで多いのは、建設業労働者の55人であるが、その平均値は82.3ドルと農業の5倍以上となっている。シェムリアップ州は地理的にタイに近い、建設業労働者は国内だけでなく国境を越えてタイへ出稼ぎに向かうケースも見られた²⁵⁾。その他の職業の平均値も総じて農業よりも高い。また、植物の葉を使った屋根葺きやプランテーション等の農業関連職の現金収入は、それぞれ15.5ドルと21.4ドルと比較的低いのに対し、兵士や警察、教師といった公務員やドライバー等の自営業職の現金収入はかなり高くなっている。

図3 職種別平均一人当たり現金月収



出所) 筆者作成。

注) 各要素の上部の数値は月収の平均値を、括弧内で示している数値は同職業に就いている人数を表している。世帯内に同種の職業に就いている者が複数人いた場合、一人当たりの所得額を算出している。

25) 実際に職業の項目欄に「タイでの出稼ぎ労働」と記述されていたのは一人のみであり、正確な人数は把握できていない。しかしこれは、今回の調査では、職場の具体的な地名まで記入するには設定していなかったためである。筆者が調査に同行した際に聞き取りをした結果、出稼ぎ先はタイであると回答したケースを確認している。International Organization for Migration (IOM) (2011) によると、タイにおけるカンボジアからの登録済み建設業出稼ぎ労働者数は、2009年12月時点で32,465人に上る。

カンボジアの農村における社会経済状況

次に、世帯年間収入額に応じて全世帯を5階層に分類した。階層毎の平均値及び収入構造の内訳を表したものが表5であり、内訳を構成比で表したものが表6である。世帯年間収入は、職業別の現金収入と、米・野菜・果物の世帯当たり生産量に現地価格を乗じて推計した額との総計として算出している。生産された米には自家消費分も当然含まれているが、世帯の1年間に取得した世帯年間収入を把握するために、ここでは米の総生産量を用いて計算した。

各階層の平均値を見ると、第1層と第5層の間には約8.7倍の格差が生じている。また、第1層の平均値に比べ第2層の平均値は約2倍、第3層は約3倍、第4層は約5倍の開きとなっている。収入構造の内訳から、米作収入が重要な職業となっているのはどの階層においても同様であるが、世帯収入全体に占める割合は、第1層では48.3%、第2層では36.5%、第3層では21.8%、第4層では19.4%と収入の高い層になるほど米作収入のウエイトは小さくなる傾向が見られる。第5層では多少の逆転が起こっており26.2%となっている。また、野菜・果物の自家菜園、野菜・果物・卵等の販売、家畜の世話、ヤシ砂糖の製糖、ヤシの葉の手工芸品生産といった職業の収入額に関しては、第5層が他の層と比較して大幅に高い。農外収入に関しては概ね上位層になるほど金額が高くなっていることが指摘できる。その他自営業及び建設等工業労働の収入額は第1層と第5層の間で大きく開いており、それぞれ約54倍と約19倍となっている。特に、建設等工業労働は世帯にとって非常に大きな現金収入源となっている。各階層の重要度の高い職業上位2種を挙げると、第1層が米作収入と農業労働収入（48.3%と18.3%）、第2層が米作収入と建設等工業労働（36.5%と22.4%）、第3層が米作収入と建設等工業労働（21.8%と14.7%）、第4層が建設等工業労働と米作収入（35.8%と19.4%）、第5層が米作収入と建設等工業労働（26.2%と20.7%）となる。第1層を除く4層では米作収入と建設等工業労働が上位を占めており、当村における重要性を推察できる。

表 5 世帯年間収入構造の内訳金額

階層	世帯年間収入の階層別平均値 (ドル)	内訳 (ドル)																			計		
		農業関連収入														農業収入							
		米作収入	野菜生産	野菜・果物の自家菜園	野菜・果物の卵等の販売	家畜の世話	プランター・コンテナでの労働	ヤシの砂・薪の製糖	その他食品加工	居住費	ヤシの手工業品生産	その他のヤシ関連の労働	ラタンの手工芸品生産	農業労働収入	漁業	漁業用品生産	ドライパター	その他自営業	建設等工業労働	公娯場		その他賃金収入	その他
第1層	436.4	5,697	105	168	510	120	150	0	0	915	555	0	60	2,160	0	120	0	99	1,080	0	0	45	11,784
第2層	857.0	8,434	30	187	1,140	195	36	0	1,080	990	1,050	0	0	1,686	300	0	0	360	5,130	180	2,280	0	23,138
第3層	1380.8	7,825	0	121	1,050	0	0	990	0	1,680	1,410	2,640	1,163	4,080	0	0	720	1,920	5,283	2,400	4,620	0	35,901
第4層	2197.9	11,105	0	188	300	980	360	450	0	2,874	1,740	0	1,350	1,968	0	0	3,000	3,000	20,460	900	8,130	360	57,145
第5層	3814.2	25,995	300	1,405	2,850	3,935	480	2,753	0	1,080	2,490	0	1,629	3,927	0	0	2,430	5,310	20,562	9,894	12,240	1,920	96,169
計	1720.7	59,056	435	2,069	5,850	5,210	1,026	4,193	1,080	7,539	7,215	2,640	4,202	13,821	300	120	6,150	10,689	52,575	13,374	27,270	2,280	227,136

表 6 世帯年間収入構造の内訳割合

階層	世帯年間収入 の階層別 平均値 (ドル)	内訳 (%)																		計					
		農業関連収入														農業収入					その他				
		米作収入	野菜生産	野菜・ 果物の 自家菜 園	野菜・ 果物の 販売の 所得	家畜の 世話	プラン テーション での労働	ヤシの砂 の製糖 機械	その他 食品加工	居住費	ヤシの手 工業品 生産	その他の ヤシ関連 の労働	ラタン の手工 芸品生産	農業労働収入	漁業収入		自営業収入		建設等 工業労働 収入			その他 自営業	ドライ ハーブ		
															漁業	漁業用品生産	漁業	その他							
第1層	436.4	48.3	0.9	1.4	4.3	1.0	1.3	0.0	0.0	7.8	4.7	0.0	0.5	18.3	0.0	1.0	0.0	0.8	9.2	0.0	0.0	0.0	0.4	100.0	
第2層	857.0	36.5	0.1	0.8	4.9	0.8	0.2	0.0	4.7	4.3	4.5	0.0	0.0	7.3	1.3	0.0	0.0	1.6	22.4	0.8	9.9	0.0	0.0	100.0	
第3層	1380.8	21.8	0.0	0.3	2.9	0.0	0.0	2.8	0.0	4.7	3.9	7.4	3.2	11.4	0.0	0.0	0.0	2.0	5.3	14.7	6.7	12.9	0.0	100.0	
第4層	2197.9	19.4	0.0	0.3	0.5	1.7	0.6	0.8	0.0	5.0	3.0	0.0	2.4	3.4	0.0	0.0	0.0	5.2	5.2	35.8	1.6	14.2	0.6	0.0	100.0
第5層	3814.2	26.2	0.3	1.4	2.9	4.0	0.5	2.8	0.0	1.1	2.5	0.0	1.6	4.0	0.0	0.0	0.0	2.5	5.4	20.7	10.0	12.3	1.9	0.0	100.0

出所) 表 4-2、表 4-3 とともに筆者作成。

注) 全 132 世帯を世帯当たりの年間収入の低い順に並べ、5 層に階層分けしている。第 1 層、第 2 層には各 27 世帯、第 3 層、第 4 層、第 5 層には各 26 世帯が含まれる(以下の分析でも同様)。世帯年間収入は、職種別の現金収入と米・野菜・果物の生産量に現地価格を乗じて推計した額とを合計して算出している。「農業労働収入」とはここでは、例えば他人の農地で米作労働の手伝い等を行い現金収入を得る職の職のことを示す。「その他食品加工」には、ヌードルや酒類を含む。「その他自営業」には、修理工、大工、鍛冶屋、植木屋、理髪師、洗濯業、彫刻家、家政婦、仕立て屋を含む。「公務員」には、村長としての給与、兵士、警察、教師を含む。「その他賃金収入」には、土産品店、警備員、清掃員、事務員、料理人、パン屋、レストラン、医師・看護師を含む。「その他」には奨学金での収入を含む。

カンボジアの農村における社会経済状況

表7は前表の項目を農業関連収入²⁶⁾と農外収入とに分けて示したものである。第1層と第5層の収入格差は農業関連収入が約4.5倍であるのに対し農外収入では約39.0倍となっている。故に、階層別の平均収入の格差の大部分は、農外収入の格差によるものであると指摘できる。また、第1層では全収入の88.6%を占めている農業関連収入であるが、上位2層ではその割合は5割を切っており、特に第4層においては農外収入の割合が62.7%と非常に高くなっていることも特徴である。

表7 世帯年間収入構造（農業関連収入と農外収入）

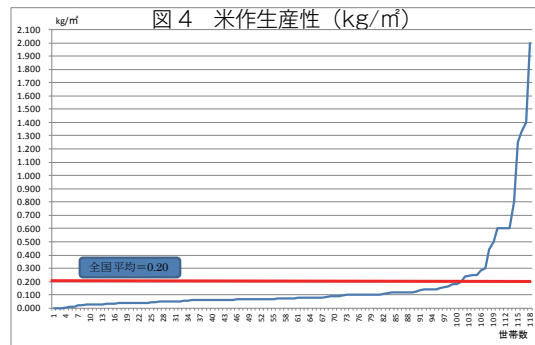
階層	世帯年間収入の 階層別平均値 (ドル)	内訳 (ドル)		内訳 (%)		計 (ドル)
		農業関連収入	農外収入	農業関連収入	農外収入	
第1層	436.4	10,440	1,344	88.6	11.4	11,784
第2層	857.0	14,828	8,310	64.1	35.9	23,138
第3層	1380.8	20,958	14,943	58.4	41.6	35,901
第4層	2197.9	21,295	35,850	37.3	62.7	57,145
第5層	3814.2	46,813	52,356	47.2	52.8	99,169
計	1720.7	114,334	112,803	-	-	227,136

出所) 筆者作成。

ここでタットレイ村における米作に注目すると、その生産性はそれほど高くないことが分かる。図4は米作生産性の結果を表しており、世帯当たりの米の生産量を各世帯の使用している農地の量で除した値を低い順に並べている。カンボジア全体の平均値は0.20kg / m²であり、この図では横太線で表示している。米作を行っている世帯総数、118世帯のうち生産性がカンボジア平均を下回っているのは、100世帯と非常に多いという結果となった。また、村全体の平均値も0.16kg / m²と、やはりカンボジア平均とは大きく乖離している。タットレイ村では小規模農地で米作をおこなっている世帯も多く、効率的な米作を行えていない可能性が高い²⁷⁾。

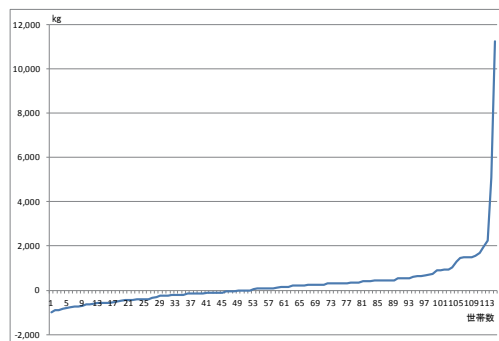
26) 本稿では、手工芸品作成やヤシ砂糖の製糖、その他食品加工等の職業は農業関連職業に含めている。これらの職業は製造業に分類される場合もあるが、カンボジアのような発展途上国におけるこれらの職業の多くは、家屋の軒先で村内にあるものを原料として手作業で行われている非常に小規模な産業であるため、本稿では製造業ではなく農業関連職業と見なしている。

27) 同コミュン内の各村長へのインタビュー調査によると、他の村の米作生産性は、0.14kg / m²から0.35kg / m²であり、同地域の他の村と比較してもタットレイ村の生産性は低く留まっていることが分かる。



出所) 筆者作成。

図 5 米の生産量と推定消費量とのギャップ (kg)



出所) 筆者作成。

また、米に関して世帯内の自家消費分も生産できていないと考えられる世帯も多く存在する。図 5 は米の生産量と消費量とのギャップを表している。一人当たりの米の年間消費量を 150kg と仮定²⁸⁾して世帯当たりの消費額を計算し、生産量との差額の小さい順に並べて表示している。差額がマイナスとなっている 52 世帯では、生産量より消費量の方が多いため、これらの世帯では米を購入せざるを得ない状況であると容易に予想できる。生産量が推定消費量を超えている世帯に関しても、その差量はわずかである場合がほとんどであり、米の販売により一定の収

28) 国際農林業協力協会 (1997) によると、カンボジア国民一人当たり年間精米消費量を 151.2kg で計算すると米は若干の余剰が生じることになると指摘していることから、ここでは一人当たり年間米消費量を 150kg と仮定した。

カンボジアの農村における社会経済状況

入を得られている世帯は非常に少ないと考えられる。

表8は世帯収入階層別の消費構造の内訳を、表9はその構成比を示している。世帯当たりの総消費平均値は、第2層及び第3層で若干の逆転が起こっているが、基本的に上位層ほど高い傾向になっており、所得が高い世帯グループほど消費額も高いことが確認できる。

表8 収入階層別の消費構造の内訳金額

	世帯当たり総消費平均値 (ドル)	内訳 (ドル)						計
		年間食糧費	年間非食糧費	教育費	衣料費	医療費	その他	
第1層	785.0	11,895.0	4,713.8	1,378.4	1,453.5	1,740.6	15.0	21,196.3
第2層	1,070.7	11,849.5	6,385.6	1,846.3	1,408.3	7,294.7	125.0	28,909.3
第3層	1,035.7	15,301.0	5,571.8	2,217.4	1,602.0	2,237.0	0.0	26,929.2
第4層	1,265.0	18,330.0	6,827.6	3,022.8	2,341.3	2,183.6	184.4	32,889.7
第5層	2,073.5	18,089.5	23,524.8	4,168.0	3,675.4	3,803.0	650.0	53,910.7
計	1,241.2	75,465.0	47,023.6	12,632.8	10,480.4	17,258.9	974.4	163,835.2

表9 収入階層別の消費構造の内訳割合

	世帯当たり総消費平均値 (ドル)	内訳 (%)						計
		年間食糧費	年間非食糧費	教育費	衣料費	医療費	その他	
第1層	785.0	56.1	22.2	6.5	6.9	8.2	0.1	100.0
第2層	1070.7	41.0	22.1	6.4	4.9	25.2	0.4	100.0
第3層	1035.7	56.8	20.7	8.2	5.9	8.3	0.0	100.0
第4層	1265.0	55.7	20.8	9.2	7.1	6.6	0.6	100.0
第5層	2073.5	33.6	43.6	7.7	6.8	7.1	1.2	100.0

出所) 表8、表9とも筆者作成。

注) 年間総消費額には、食糧消費額、非食糧消費額、教育費、衣料費、医療費、住宅賃貸料、土地使用料を含む。

消費の内訳別に見ると、食糧費に関しては階層間の大きな差異は見られない。最も低い第2層と最も高い第4層との格差は1.5倍程度である。それに対し、非食糧費には大きな差が生じている。第5層の値は特に高くなっており、最下層と第5層の差は約5.0倍にもなっている。これは灯油代、家畜エサ代、バッテリー充電代、タバコ代等の使用量の差が原因であると考えられる。また、教育費及び衣料費も上位層ほど支出額が高く（衣料費に関しては第1層と第2

層では若干の逆転が起こっている)、子供の教育や衣服にける金銭的余裕が出てきていることが予想できる。階層間の格差は最大で、教育費が約 3.0 倍、衣料費が約 2.6 倍となっている。一方で、医療費に関しては所得の高さとの関連性は見られない。最も高いのは第 2 層で、年間総消費の 25.2%を占めており、第 1 層や第 3 層においても約 8%を医療費に費やしている。世帯メンバーの病気・事故等の不測の事態では、緊急に多額の費用が必要となるが、所得の低い世帯ではそれに備えた貯蓄を行えていない場合も多く、医療費の多さは家計の大きな負担になっていると考えられる。

次に、上記で計算した世帯年間収入を世帯人数で除して一人当たり年間収入額を求め、貧困の分析を行った。その結果求められたタットレイ村の平均一人当たり年間収入額は、354.3 ドルである。本稿では、貧困状況を把握するために、カンボジア独自の貧困ライン、一人 1 日 1 ドル以下、一人 1 日 2 ドル以下の 3 つの貧困ラインを用いて分析を行った。カンボジア独自の貧困ラインは、首都プノンペン、その他都市部、農村部、カンボジア全体の 4 つに分けて貧困ラインを設定しており、今回の調査は対象が農村であるため農村部の貧困ラインを用いた。これは、食糧貧困ラインと非食糧貧困ライン及び清潔な水の価格を考慮して作成したもので、農村部における数値はそれぞれ一人 1 月当たり、69,963 リエル、35,350 リエル、1,247 リエルとなっている²⁹⁾。食糧費は 2,200kcal と、以前の貧困ラインで採用されていた 2,100kcal より厳しい基準となっている。非食糧費は食糧以外の必要品購入に必要な経費を、清潔な水の価格は清潔な水を確保するために掛かる費用を考慮している。清潔な水を確保するために費用が掛かるとされているのはプノンペンを除く、その他都市部と農村部であり、農村部の方が必要経費は高い。これらの費用を合計した月当たりの貧困ラインは一人当たり 106,560 リエル、一人 1 日当たりの貧困ラインは 3,503 リエル（約 0.88 ドル）となる。以前の農村部の貧困ラインは 3,213 リエルであるため新貧困ラインは 290 リエル高くなっている。農村部の貧困ラインは、最も低く設定しており、プノンペンは農村部の約 1.8 倍の 6,347 リエル、その他都市部では約 1.2 倍の 4,352 リエル、カンボジア全体では約 1.1 倍の 3,871 リエルとなっている。この数値の差は、主に非食糧費の差によるもので、特にプノンペンにおける同数値は農村部の約 2.8 倍に上る。本稿では、新しいデータを用いて算出された、より厳しい基準であるこの新貧困ライン（3,503 リエル、約 0.88 ドル）を独自の貧困ラインとして採用する。

表 10 は各貧困ラインを基準としたタットレイ村における貧困者数と貧困率をまとめたものである。3 つの中で最も低い額はカンボジア独自の貧困ラインであるが、この基準における貧

29) Poverty in Cambodia - A New Approach - Redefining the poverty line - (2013) より。

カンボジアの農村における社会経済状況

困者数は 322 人であり、村人口の半数以上、50.2%が貧困状態にある。貧困ラインを 1 日 2 ドルの基準にまで引き上げると、94.5%とほとんどの住民が貧困状態にあるということになる。この分析にて用いているのは、現金として得ている給与等の所得だけでなく、実際には現金が発生していない自家消費用の農作物等の数量を換算して求めた総所得額であるにもかかわらず、最も緩い基準でさえ半数以上が貧困状況に陥っていることを表している。Ministry of Planning (2013) によると、この貧困基準を用いた 2009 年のカンボジアの農村部の貧困率は 24.6%となっており、タットレイ村における数値が非常に高いことが分かる。しかしこれは、タットレイ村人口の半数或いは大半が飢餓に陥っていることを意味しない。真に人々の貧困状態を把握するためには、所得等の経済的側面だけでなくその他の非経済的側面にまで注目することが必要であると考えられる。故に本稿では、後述するように非経済的側面の分析も行う。

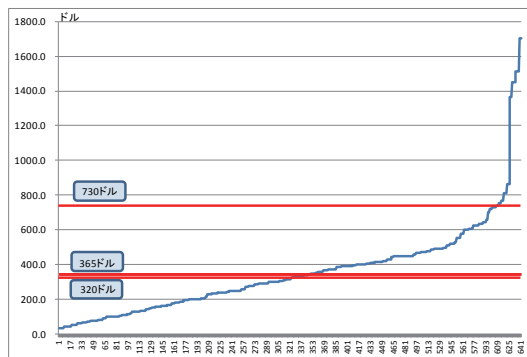
表 10 貧困状況

	1日1ドル以下	1日2ドル以下	カンボジア独自の農村部貧困ライン
貧困者数（人）	366	606	322
貧困率（%）	57.1	94.5	50.2

出所）筆者作成。

注）1 日 1 ドル以下及び 1 日 2 ドル以下は 365 を乗じて年間の貧困ラインを設定している。カンボジア独自の農村部貧困ラインは 3,503 リエル。1 ドル = 4,000 リルとして換算し、年間分として 365 を乗じた年間貧困ラインは約 320 ドルである。

図 6 一人当たり所得及び貧困ライン



出所）筆者作成。

図6はタットレイ村における一人当たり所得を低い順に並べ図示したものである。図内の横太線は各貧困ラインを表しており、低い順にカンボジア独自の農村部貧困ライン(約320ドル)、1日1ドル(365ドル)、1日2ドル(730ドル)となっている。所得額に応じて100ドル毎に階級分けを行った場合、第1階級(100ドル未満)の人数は66人と比較的少ないが、続く第2階級(100ドル以上200ドル未満)から第5階級(400ドル以上500ドル未満)の4階級は全て110人以上となっている。第1階級から第5階級までの総人数は537人、村人口の83.8%を占めており、大半の人々は所得の低いレベルに留まっていることが分かる³⁰⁾。

表 11 年間一人当たり所得の状況

平均値	354.3
中央値	317.9
最頻値	450
頻度	125
分散	67362.06
標準偏差	259.54
変動係数	0.73
貧困ギャップ	
1日1ドル	0.26
1日2ドル	0.55
カンボジア独自の農村部貧困ライン	0.23

出所) 筆者作成。

表11にはタットレイ村における年間一人当たり所得の状況をまとめている。平均値の354.3ドルに比べ、中央値は317.9ドルと少し低い値となっている。一方で、階級幅を100ドルとした場合の最頻値は450ドルと平均値、中央値よりもやや高い結果となっている。上述したように第2階級から第5階級までは全て110人を超えており、ほぼ同水準となっている。最頻値の頻度は125人である。平均値、中央値、最頻値を考慮すると、年間一人当たり所得の高さは、1日1ドル水準の前後程度であると考えられる。また、分散は67362.06、標準偏差は259.54ドル、変動係数は0.73である。平均値354.3ドルに対して標準偏差が259.54ドルであるということは、変動はかなり大きいと見ることができるだろう。さらに、図6で表した横太線以下の四角部分

30) 最高は第18階級であった。

カンボジアの農村における社会経済状況

に対する横太線から各数値までの不足分の割合で表す貧困ギャップ率も合わせて示している。1日1ドル及びカンボジア独自の農村部貧困ラインの貧困ギャップ率はそれぞれ、0.26 及び 0.23 であり約4分の1の不足分が生じている。基準を1日2ドルにまで引き上げると、不足分は0.55 と半分以上となる。シェムリアップ州の貧困ギャップ率が約17.3% (0.1731) であることを考慮すれば、これらの数値は非常に高いと指摘できる。

表 12 一人当たり所得累積比及びジニ係数

	20%	40%	60%	80%	100%	ジニ係数
1人当たり所得累積比	5.2%	16.9%	35.1%	59.1%	100.0%	0.33

出所) 筆者作成。

表 13 収入階層別の平均世帯人数及び世帯主の状況

	性別	平均世帯人数 (人)	平均世帯収入 (ドル)	人数 (人)	割合 (%)	平均年齢 (歳)	婚姻状況 (人)			
							未婚	既婚	死別	離婚
第1層	男性	5.1	471.4	13	48.1	40.5	0	12	1	0
	女性	2.9	404.0	14	51.9	49.6	0	0	11	3
第2層	男性	4.4	857.3	19	70.4	36.6	0	18	0	1
	女性	4.8	856.1	8	29.6	50.0	1	1	5	1
第3層	男性	4.5	1380.8	22	84.6	39.6	1	21	0	0
	女性	5.0	1380.6	4	15.4	58.5	0	0	4	0
第4層	男性	5.5	2198.7	19	73.1	42.5	0	19	0	0
	女性	4.1	2195.7	7	26.9	52.1	1	0	6	0
第5層	男性	6.2	3672.2	24	92.3	41.8	1	23	0	0
	女性	6.5	5517.5	2	7.7	59.0	0	0	2	0

出所) 筆者作成。

表 14 収入階層別の平均世帯人数及び世帯主の状況 (続き)

	性別	職種 (人)						教育状況 (人)										識字能力 (人)	
		農業	ラタン等その他農業	漁業	自営業	賃金収入	その他	無し	小学中退	小学卒業	中学中退	中学卒業	高校中退	高校卒業	無回答	クメール語	英語		
第1層	男性	13	0	0	0	1	0	3	7	0	2	0	1	0	0	7	0		
	女性	13	4	0	0	0	0	5	8	1	0	0	0	0	0	5	0		
第2層	男性	12	0	0	0	9	1	5	11	0	2	0	0	0	0	1	11	1	
	女性	7	3	0	0	1	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0		
第3層	男性	14	4	2	3	7	0	5	11	0	3	0	2	0	1	12	1		
	女性	4	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0		
第4層	男性	8	2	0	3	9	0	3	10	1	3	0	1	0	1	16	0		
	女性	7	3	0	0	0	0	4	3	0	0	0	0	0	0	1	0		
第5層	男性	13	7	0	5	10	0	5	14	0	3	0	0	2	0	12	3		
	女性	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0		

出所) 筆者作成。

表 12 は一人当たり所得の累積比率及びジニ係数を表している。単純に比較はできないがカンボジアの所得のジニ係数は 0.379³¹⁾ であるため、当村における不平等度は、カンボジア全体とはほぼ変わらないことが分かる。しかし、最下層 20% が全体の 5.2% の所得しか得ていないのに対し、最上位 20% は 40.9% の所得を得ていることを考慮すれば、不平等が少なからず存在することが窺える。

表 13 は、平均世帯人数と世帯主の状況を世帯所得の階層別及び性別にまとめたものである。平均世帯人数は、階層が高くなるほど多くなる傾向が見られるが、第 2 層から第 5 層に関しては世帯主の性別による大きな差異は見られない。第 1 層を除いた階層においては、男性が世帯主である世帯の方が多くその割合は 7 割を超えている。しかし、第 1 層では男性世帯主の場合 5.1 人であるのに対し、女性世帯主では 2.9 人と少ない点が特徴的である。また、第 1 層は唯一男性世帯主より女性世帯主の方が多くなっている。さらに、第 2 層から第 4 層では平均世帯収入に関して性別による差異はほとんどないが、第 1 層では女性世帯主の方が大幅に低くなっている³²⁾。婚姻状況から、これらのほとんどは夫と死別していることが分かる。女性が世帯主となっている全 35 世帯の内、40% が第 1 層に属していることから、女性が世帯主となっている世帯では、世帯人数及び世帯所得額が低くなる傾向があると言える。

また、表 14 では世帯主の職種、教育状況、識字能力をまとめている。職種で最も多いのはどの階層でも農業であるが、第 1 層を除くと次いで賃金収入が多く、建設等工業労働や公務員として一人が複数の職業を持っているケースも多い。しかしこの傾向は、男性世帯主にのみ当てはまる傾向であり、女性世帯主の場合、自営業及び賃金収入の職に就いているのは第 2 層の 1 名（賃金収入）だけであり、女性が世帯主の場合は家庭に留まらなければならず、農業及びラタン等その他農業にしか就くことが出来ない状況にあることも考えられる。

世帯主の教育状況に関しては、階層による差はあまり存在せず、多くの世帯主が小学校中退程度或いは全く教育を受けていない状況である。高校まで卒業したと回答しているのは第 5 層の男性世帯主 2 人のみである。女性世帯主の場合は、男性に比べより低いレベルの教育しか受けられておらず、最高で小学校卒業が 1 名（第 1 層）、その他は小学校中退或いは全く教育を受けていない状態であった。英語の識字能力³³⁾ を有する世帯主は、全ての階層を合わせてもわずか 5 人のみであり、全て男性であった。母国語であるクメール語の識字に関して、男性世帯主は半数から半数強程度が習得しているが、女性世帯主の場合は非常に少ないという結果で

31) Human Development Report 2013。

32) 第 5 層だけは女性世帯主の方が大幅に高くなっており、2 人だけが属している。

33) 識字能力の判定では、回答者に世帯全員のクメール語及び英語の能力を質問した。

カンボジアの農村における社会経済状況

あった。これらの結果から、特に女性世帯主の多くは十分な教育を受けられなかった可能性が高いことが窺える。

表 15 は世帯所得階層別の生産年齢人口を表している。生産年齢人口は、第 1 層から第 3 層では各層に 60 人台、世帯平均で 2.3 人から 2.6 人であるのに対し、第 4 層では 89 人で世帯平均 3.4 人、第 5 層になると 106 人で世帯平均 4.1 人となっている。上位層ほど労働力になりうる人口も多く、このことが所得の高さにつながっていると考えられる。男女別に見ても、第 5 層では世帯当たり男性 2 人以上、女性 2 人以上と、多くの労働力を保持していることが読み取れる。世帯内に占める生産年齢人口の割合を見ると、一番高いのは第 4 層の 66.9% である。また、第 1 層は総人数が少ないため、61.3% と比較的高い。第 3 層の割合は 51.3% とかなり低く、全世帯人数の約半数で世帯全体の経済を支えていることが分かる。実際には 65 歳以上でも労働する世帯メンバーは多いと思われるが、生産年齢人口の少なさは世帯の経済状況に大きな負担を与えていると考えられる。

表 15 収入階層別生産年齢人口

	総人数 (人)	世帯平均 人数 (人)	生産年齢人口 (人)						世帯内に占める 生産年齢人口の 割合 (%)
			総数	世帯平均	男性	世帯平均	女性	世帯平均	
第1層	106	3.9	65	2.4	26	1.0	39	1.4	61.3
第2層	115	4.3	69	2.6	34	1.3	35	1.3	60.0
第3層	119	4.6	61	2.3	27	1.0	34	1.3	51.3
第4層	133	5.1	89	3.4	43	1.7	46	1.8	66.9
第5層	162	6.2	106	4.1	52	2.0	54	2.1	65.4

出所) 筆者作成。

注) 生産年齢人口は 15 歳以上 64 歳以下の人口を算出し計算している。

表 16 収入階層別学齢年齢人口の経済活動状況及び識字能力状況

		男性							女性						
		6歳以上15歳以下 の人数 (人)	活動状況				識字能力		6歳以上15歳以下 の人数 (人)	活動状況				識字能力	
			学生	労働	学生と 労働	無回答	クメール語	英語		学生	労働	学生と 労働	無回答	クメール語	英語
第1層	20	15	3	0	2	6	0		10	10	0	0	0	3	0
第2層	20	17	2	0	1	5	0		15	14	0	0	1	5	1
第3層	16	14	2	0	0	10	0		15	13	0	1	1	7	0
第4層	11	7	0	0	4	4	0		17	17	0	0	0	9	0
第5層	20	19	0	0	1	7	0		20	20	0	0	0	8	0

表 17 収入階層別学齢年齢人口の経済活動状況及び識字能力状況割合

		男性						女性							
		1世帯当たりの 6歳以上15歳以下 の人数 (人)	階層当たりの人数に対する割合（％）						1世帯当たりの 6歳以上15歳以下 の人数 (人)	階層当たりの人数に対する割合（％）					
			活動状況				識字能力			活動状況				識字能力	
			学生	労働	学生と 労働	無回答	クメール 語	英語		学生	労働	学生と 労働	無回答	クメール 語	英語
第1層	0.7	75.0	15.0	0.0	10.0	30.0	0.0	0.4	100.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	
第2層	0.7	85.0	10.0	0.0	5.0	25.0	0.0	0.6	93.3	0.0	0.0	6.7	33.3	6.7	
第3層	0.6	87.5	12.5	0.0	0.0	62.5	0.0	0.6	86.7	0.0	6.7	6.7	46.7	0.0	
第4層	0.4	63.6	0.0	0.0	36.4	36.4	0.0	0.7	100.0	0.0	0.0	0.0	52.9	0.0	
第5層	0.8	95.0	0.0	0.0	5.0	35.0	0.0	0.8	100.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	

出所) 表 16、表 17 とも筆者作成。

表 16 は学齢年齢（6 歳以上 15 歳以下）³⁴⁾ の人口とその経済活動状況、識字能力状況をまとめたものであり、表 17 はその割合を示している。男児の学齢年齢人口には階層の高さとの関連はあまり見られず、第 1 層、第 2 層及び第 5 層にて 20 人、1 世帯当たり 0.7 人から 0.8 人を保持していることが分かる。下位の 3 層では、労働を行っている人口もわずかながら存在する。世帯所得が高いグループほど、子供に教育を集中して受けさせている傾向が見て取れる。識字能力に関しては、クメール語を習得している割合は、ほとんどの階層において 25% から 35% 程度であるが、第 3 層では約 63% と高い。一方で、英語を習得している者は皆無であった。女児の場合、世帯当たりの学齢年齢人口は、階層が高くなるほど多くなっており、第 5 層では第 1 層の 2 倍となっている。男児に比べ学生に専念している者が多く、第 3 層の「学生と労働」と回答した 1 名及び無回答を除くと、全てが学生と回答している。クメール語の識字能力に関しては、第 3 層の数値は男児より低い但他的階層では男児と同等かやや高く、第 4 層においては半数以上がクメール語の識字能力を備えている。英語に関しては第 2 層の 6.7% が習得しているのみという結果であった。

表 18 収入階層別若年層の経済活動状況及び識字能力状況（16 歳以上 22 歳以下）

	男性							女性						
	16歳以上22歳 以下の人数 (人)	活動状況				識字能力		16歳以上22歳 以下の人数 (人)	活動状況				識字能力	
		学生	労働	学生と 労働	無回答	クメール 語	英語		学生	労働	学生と 労働	無回答	クメール 語	英語
第1層	6	2	4	0	0	4	0	8	3	5	0	0	5	1
第2層	7	4	3	0	0	5	0	10	2	6	0	2	8	0
第3層	4	4	0	0	0	2	0	6	2	4	0	0	5	2
第4層	14	6	8	0	0	10	2	11	6	5	0	0	10	5
第5層	15	3	12	0	0	10	4	19	8	10	1	0	16	6

34) カンボジアの教育制度は六・三・三制で、義務教育は憲法上 9 年間である。故に本稿では、義務教育相当年齢である 6 歳以上 15 歳以下を学齢年齢と定義している。

カンボジアの農村における社会経済状況

表 19 収入階層別若年層の経済活動状況及び識字能力状況割合（16 歳以上 22 歳以下）

	男性								女性							
	1世帯当たりの 16歳以上22歳 以下の人数 (人)	階層当たりの人数に対する割合（％）							1世帯当たりの 16歳以上22歳 以下の人数 (人)	階層当たりの人数に対する割合（％）						
		活動状況				識字能力				活動状況				識字能力		
		学生	労働	学生と 労働	無回答	クメール 語	英語			学生	労働	学生と 労働	無回答	クメール 語	英語	
第1層	0.2	33.3	66.7	0.0	0.0	66.7	0.0		0.3	37.5	62.5	0.0	0.0	62.5	12.5	
第2層	0.3	57.1	42.9	0.0	0.0	71.4	0.0		0.4	20.0	60.0	0.0	20.0	80.0	0.0	
第3層	0.2	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0		0.2	33.3	66.7	0.0	0.0	83.3	33.3	
第4層	0.5	42.9	57.1	0.0	0.0	71.4	14.3		0.4	54.5	45.5	0.0	0.0	90.9	45.5	
第5層	0.6	20.0	80.0	0.0	0.0	66.7	26.7		0.7	42.1	52.6	5.3	0.0	84.2	31.6	

出所) 表 18、表 19 とも筆者作成。

また、表 18 は若年層の経済活動状況と識字能力をまとめたものであり、表 19 はその割合を示している。本稿では 16 歳以上 22 歳以下を若年層として計算している。男性若年層の人数は、第 1 層から第 3 層では 4 人から 7 人とやや少ないが、上位 2 層では 14 人及び 15 人と比較的多くなっている。活動状況は、第 3 層のみ全ての若年層が学生という結果になったが、他の階層では学生と労働とに回答が割れている。第 5 層では労働の割合は 80.0% と非常に高い。識字能力に関してクメール語習得率は、最も低い第 3 層が 50.0%、第 2 層や第 4 層では 71.4% とかなり高い数値を示している。英語を習得している人が存在するのは第 4 層と第 5 層だけであった。

女性の状況を見ると、若年層の人数は第 3 層が 6 人と少なく、第 1・第 2・第 4 層で 10 人程度となっているが、第 5 層では 19 人と多くなっている。学齢年齢人口の女兒はほぼ全員が学生であったが、若年層の場合は一転して、労働を行っている割合の方が高くなっている。識字能力に関しては、ほとんどが男性よりも高い数値を示している。特に、第 4 層では 90.9% がクメール語を習得しており、英語習得率も 45.5% と非常に高い。また、英語の識字能力を有する階層は、第 2 層を除いた全ての層で存在しているが、第 1 層は 12.5% と比較的低い。

シェムリアップ市街地には、外国人観光客も多く訪問するため、観光客向けの職業（レストラン、ホテル、ドライバー等）の需要も多い。これらの職業に就く場合、英語習得の有無が重要な条件となる。前述の表 5 で示したように、世帯収入内の土産品店、レストラン等の観光業関連の収入を含む「その他賃金収入」の額は、第 1 層ではゼロであり、階層が高くなるほど多くなっている。英語習得率が高い上位層ほど、これらの職業収入が高くなる傾向が見られ、また、将来若年層がこれらの職に就く場合にも有利になることが予想される³⁵⁾。

35) シェムリアップ州観光業における英語能力と所得・雇用の関係については Lwin & Morrow (2013) を参照。

表 20 は、タットレイ村内における主な情報源と世帯の所有する耐久消費財の状況を表している。タットレイ村において情報を入手する手段はテレビ及びラジオがほとんどであり、ラジオを利用している世帯数は階層別に大きな差異が見られない。テレビに関しては上位層が下位層よりわずかながら多くなっている。インターネットを利用している世帯は皆無で、新聞を利用している世帯も非常に少ない。

テレビ・ラジオの所有台数に関しては、情報源の数値と同様の傾向が見られ、テレビは階層が高くなるほど多く、ラジオは階層による差異があまり見られない。村内の重要な輸送手段である自転車の所有台数は全体的に多く、全ての階層で世帯当たり平均 1 台以上の自転車を所有している。バイクもまた非常に便利な輸送手段であるが、その所有台数は下位層より上位層の方が多い。また、シムリアップ農村部の生活においても携帯電話は重要なツールとなっている。携帯電話本体や電話番号、通話料金用のプリペイドカードを販売する店は多くあり、農村居住者でも安価³⁶⁾で簡単に入手することができる。タットレイ村でも普及しており、所有数は階層が高いほど多い。第 1 層では 15 台と少ないが、第 2 層と第 3 層では 1 世帯当たり平均 1 台程度、第 5 層では平均約 1.9 台となっている。

表 20 収入階層別の主な情報源と耐久消費財所有数

	情報源（世帯）				世帯当たり耐久消費財所有数（台）				
	テレビ	ラジオ	インター ネット	新聞	テレビ	ラジオ	自転車	バイク	携帯電話
第1層	9	14	0	0	7	12	31	13	15
第2層	8	18	0	2	9	13	43	13	26
第3層	13	13	0	0	11	11	31	16	28
第4層	14	12	0	1	13	10	37	21	42
第5層	19	14	0	3	15	10	44	37	50
計	63	71	0	6	55	56	186	100	161

出所）筆者作成。

注）耐久消費財の中で冷蔵庫、洗濯機、コンピューターを所有している世帯数はゼロ、車を所有している世帯は第 3 層に 1 世帯存在しているだけであった。

次に、タットレイ村における貯蓄の状況に注目すると、毎月貯蓄を行っている世帯数は多いが、その額は非常に少ない。表 21 は貯蓄に関する結果をまとめたものである。毎月貯蓄を行っていると回答した世帯数は 70 世帯、その平均額は 11,100 リエル（28 ドル程度）である。ただし、これらの世帯でも安定して毎月貯蓄を行っている訳ではなく、収入に余裕がある場合のみに限られている。

36) 例えば筆者が 2010 年に入手した携帯電話は本体が 18 ドル、電話番号が 7 ドルであった。料金用プリペイドカードは 2 ドル分から販売されていた。

カンボジアの農村における社会経済状況

表 21 平均月当たり貯蓄額及び貯蓄を行っている世帯数

	貯蓄を行っている世帯数	平均貯蓄額	
		Riel	ドル
月当たり貯蓄額	70	11,100	2.8

出所) 筆者作成。

表 22 は借金を行っている世帯数及び貸し手の種類をまとめたものである。何らかの理由により借金をしている世帯数は、およそ全体の 4 割の 56 世帯、その平均額は 207.2 ドルであった。借金の理由は、家族のサポートのため (17.9%)、食糧の購入 (16.1%)、バイクの購入 (10.7%)、農業用費用に利用 (10.7%)、家の建築用 (8.9%)、医療費 (8.9%)、家畜の購入 (7.1%) 等、様々であった。また、借金の貸し手の種類としては、銀行やマイクロクレジットの利用世帯は少なく、それぞれ 6 世帯と 5 世帯である。最も多いのは非公式の貸し手で、全体の約半数である 27 世帯が利用している。それぞれの平均借金額を比較すると、銀行及びマイクロクレジットの平均値は 500 ドル代であるが、非公式貸し手は 118.9 ドルと少ない。非公式貸し手を利用する世帯の多さは、村内においてかなり少額の借金が可能なシステムが構築されており、利用しやすい環境であるためと考えられる。

表 22 貸し手別の平均借金額及び借金を行っている世帯数

	世帯数	平均借金額 (ドル)
借金をしている世帯数	56	207.2
貸し手の種類		
銀行	6	513.3
マイクロクレジット	5	580.0
非公式貸し手	27	118.9
その他	18	134.0

出所) 筆者作成。

表 23 収入階層別の所有家畜総価値、総貯蓄額及び借金総額

	総貯蓄額 (ドル)			所有家畜 総価値 (ドル)	平均所有家 畜価値 (ドル)	借金総額 (ドル)			貸し手の種類				借金総額の 世帯年間収 入に対する 割合
		世帯数	平均貯蓄額 (ドル)				世帯数	平均借金額 (ドル)	銀行	マイク ロクレ ジット	非公式 貸し手	その他	
第1層	156.3	4	39.1	15347.4	568.4	375.0	10	37.5	1	0	4	5	0.9
第2層	583.8	9	64.9	16523.1	612.0	3022.5	15	201.5	0	2	8	5	3.5
第3層	151.0	6	25.2	12864.4	494.8	700.0	8	87.5	0	1	4	3	0.5
第4層	291.3	12	24.3	13602.8	523.2	1852.5	12	154.4	3	0	6	3	0.8
第5層	306.0	8	38.3	28487.9	1095.7	5653.8	11	514.0	2	2	5	2	1.5
計	1488.3	39	-	86825.5	-	11603.8	56	-	6	5	27	18	-

出所) 筆者作成。

注) 総貯蓄額の世帯数は、月当たりの貯蓄額の世帯数とは異なる。総貯蓄額の項目に回答した世帯数は全 39 世帯であった。平均貯蓄額及び平均借金額はそれぞれの世帯数で、平均所有家畜価値は各階層に属する世帯数で除している。

表 23 は、所有家畜の総価値、総貯蓄額、借金総額及び貸し手の種類を世帯所得階層別にまとめたものである。貯蓄及び借金を行っている世帯数は、階層の高低による特徴は見られない。平均貯蓄額と世帯所得との関連性は見られず、第 2 層が 64.9 ドルと最も高くなっている。所有している家畜の価値の項目では、豚、牛、水牛、鶏、カモの 5 種類の家畜の数及びそれらを売却した場合の価格を質問し、総価値を計算した。平均所有家畜価値も世帯の所得との関連性はあまり見られないが、第 1 層から第 4 層までの平均値が 400 ドル台から 600 ドル台に留まっているのに対し、第 5 層では 1,000 ドル以上という高い値を記録している。表 5 の世帯収入の内訳で確認できるように、この階層では世帯収入全体に占める家畜の世話をする職業の収入割合が他の階層と比較して高くなっており、所有している家畜数が比較的に多い傾向にあることが分かる。第 5 層の世帯は、実際には毎月の収入には少なくとも、何か経済的な問題が家庭内に生じた場合に、これらの家畜を手放して現金を得るという手段を選択できる可能性が他の階層の世帯よりも高いことが考えられる。

また、平均借金額と世帯収入との関連もほとんど確認できない。514.0 ドルと最も借金額が多いのは第 5 層であるが、次いで、第 2 層が 201.5 ドルとなっている。借金総額の世帯年間収入に対する割合を見ても第 2 層が 3.5 と突出して高いことが分かる。第 2 層のこの高さは、前述したこの層の医療費の高さに起因する所が大きいと考えられる。下位層におけるこのような借金の多さは、大きな経済負担になっていることが予想される。

階層ごとの貸し手の種類に関しても際立った特徴は読み取れないが、非公式貸し手は世帯収入の高低に関わらず利用されていることが分かる。

5 結果

タットレイ村での現地調査データを分析した結果、明らかになったことは以下の通りである。

はじめに、農業従事者の割合及び各職業の世帯収入に与える影響に関しては以下の6点が挙げられる。(1) 小規模であっても米作を行っている世帯が大多数であり、タットレイ村においては米作が主要な産業となっているが、米作を含む農業から得ている月収は平均16.3ドルと非常に少ない。(2) 年間世帯収入額の多寡により全世帯を5階層に分類した結果、最下層の第1層と最上層の第5層の間には約8.7倍の格差が生じていることが明らかになった。(3) 米作収入が大きく寄与しているのは全ての階層においても同様であるが、世帯収入全体に占める割合は、基本的に上位層になるにつれて低くなっている。(4) 自営業による収入及び工業労働等を含む賃金収入に関しては、上位層になるほど高い傾向がある。第4層においては建設等工業労働による収入額の割合が35.8%と米作収入(19.4%)以上となっている。(5) 第5層は他の層と比較して、農業関連職業(野菜・果物の自家菜園や家畜の世話等)の収入額が大幅に高い。(6) 第1層と第5層との間の収入格差を農業関連収入と農外収入とに分けて推計すると、農業関連収入が約4.5倍であるのに対し、農外収入は約39.0倍の開きが生じている。

米作生産性及び生産量と推定消費量とのギャップに関しては以下の2点である。(7) 当村の主要な職業である米作の生産性の平均値は $0.16\text{kg}/\text{m}^2$ と非常に低い。カンボジア全体の平均値 $0.20\text{kg}/\text{m}^2$ より低いのは、米作を行っている全118世帯中100世帯であり生産性の低さが窺える。(8) 米の生産量と推定消費量とのギャップを見ると、52世帯では生産量より消費量が多く、これらの世帯では米を購入する必要があることが予想される。ほとんどの世帯は生産した米を販売することで多くの所得を得るのは難しい。

消費構造に関しては3点である。(9) 年間世帯収入額の階層別に消費構造の内訳を見ると、ほとんどの項目に関して階層が高いほど消費額も高くなっているが、医療費に関してはそのような関係性は見られない。(10) 食糧費に関して最も少ない第2層と最も多い第4層との格差は1.5倍程度であるのに対し、非食糧費は第5層が突出して多く最も少ない第1層との格差は約5.0倍となっている。(11) 教育費と衣料費に関して、最少の階層と最大の階層の間にはそれぞれ約3.0倍と約2.6倍の開きがある。

貧困・不平等状況の分析では4点が明らかになった。(12) 村内の貧困状況の把握のために3つの指標を用いて分析を行った。この定義によると、最も緩い貧困ラインであるカンボジア独自の農村貧困ライン以下の貧困率は50.2%、最も厳しい貧困ラインである1日2ドル以下の貧困率は94.5%と、多くの居住者が貧困状態にある。(13) 年間一人当たり所得の平均値は354.3ドル、中央値は317.9ドル、最頻値は450ドルであるため、当村における所得額は1日1ドル

前後の水準であると考えられる。それに対し、標準偏差は259.54ドル、変動係数は0.73であることから変動はかなり大きい。(14) 1日1ドル以下及びカンボジア独自の農村部貧困ラインの貧困ギャップ率は0.26及び0.23であり約4分の1の不足分が生じている。基準を1日2ドル以下にまで引き上げると、不足分は0.55と半分以上となる。(15) 当村の所得のジニ係数は0.33であり、カンボジア全体のジニ係数0.379と比べそれほど深刻でないことが指摘できる。

世帯構成に関する分析では以下の点が明らかになった。まず、世帯主の状況については4点である。(16) 平均世帯人数は年間世帯収入額の低い世帯層ほど少ない傾向がある。また、各階層の世帯主の性別の割合を見ると、第5層では92.3%と男性が圧倒的に多くなっており、第2層から第4層においても男性が世帯主の割合は7割を超えている。第1層ではこの傾向が逆転し、男性世帯主の割合は48.1%と女性世帯主の方が多くなっている。(17) 第1層は唯一女性世帯主の方が多く、平均世帯収入に関しても大幅に低くなっている。これらのほとんどは死別により世帯主になっているが、女性が世帯主となっている世帯では、世帯人数及び世帯所得額が少なくなる傾向が見られる。(18) 世帯主の職業は性別による差異が見られた。男女ともどの階層でも、最も多いのは農業であるが、男性世帯主の場合、賃金収入等の複数の職業を持っているケースもあるが、女性世帯主の場合、ほとんどが農業或いはラタン等その他農業にしか就いていない。(19) 世帯主の教育状況には階層別の特徴は見られず、多くは小学校中退或いは教育を受けていない状況である。識字能力についても母国語のクメール語の識字能力を有する世帯主は半数或いは半数弱であり、英語の識字能力がある世帯主はほとんどいない。

次に、生産年齢人口・学齢年齢人口・若年層別の分析では4点が挙げられる。(20) 世帯内の生産年齢人口を見ると、第1層から第3層はほとんど差異が見られない。第5層では世帯当たり4.1人となっており、労働力になり得る人口も多い。(21) 世帯内の学齢年齢人口の状況を性別に見ると、男児はほとんどが学生と回答しているが、年間世帯収入額の低い3層においては労働を行っている者もある。女兒の場合、学生がほとんどである。(22) 男性の若年層の活動状況に関しては、第3層では全て学生と回答しているが、その他の階層では学生と労働とに回答が分かれている。また、英語の識字能力があると回答しているのは第4層及び第5層のみである。(23) 女性の若年層の活動状況は、ほとんどの階層にて学生の割合より労働に従事している割合の方が高い。また、識字能力に関してはクメール語・英語の両方に関してほとんどが、男性より高い数値となっている。

世帯が保有している資産・借金に関しては4点が指摘できる。(24) 当村にて情報源として利用されているのはテレビ・ラジオがほとんどであった。世帯の所有する耐久消費財の状況を見ると、テレビ・バイク・携帯電話の所有台数は上位層ほど多く所有している傾向がある。(25)

カンボジアの農村における社会経済状況

貯蓄の状況を見ると、毎月貯蓄を行っている世帯数は70世帯と多いがその平均額は約2.8ドルと少額である。加えて、この貯蓄は毎月ではなく収入に余裕がある場合のみ貯蓄を行っている場合が多い。(26) 借金を行っている世帯数は56世帯であるが、その平均額は207.2ドルと非常に高い。貸し手の種類は、非公式の貸し手が最も多く平均借金額も少額であり、銀行及びマイクロクレジットの利用世帯数は少ない。(27) 総貯蓄額と年間世帯収入額及び所有家畜の総価値と年間世帯収入額との間には、どちらも関連性は見られなかったが、第5層はこれらの数値が他の階層と比較して高い傾向が見られた。また、借金総額に関しては最も高いのは第5層であるが、次に高いのは第2層となっており、世帯年間収入額との比較で考えればこの割合は非常に高いことが確認できる。

最後にタットレイ村全体に関しては3点である。(28) 当村は市街地や観光地から離れているため、観光客が訪問することがほとんどなく、主要な産業は農業である。小学校や中学校、病院等は、村内にはないがコミューン内、約2kmの距離にある。(29) 村内では、電気供給・水道・ガス供給はほとんど普及しておらず、主要な水の供給源は井戸、主な輸送手段は自転車、バイクである。(30) トイレ設置の普及率は15.2%程度とシェムリアップ州の数値より低い状態に留まっているが、過去5年間における幼児死亡や妊産婦死亡の発生はゼロであり、村内の病気に関する状況は改善の傾向にある。

おわりに

本稿の目的は、シェムリアップ州内の農村の実態を把握することであり、タットレイ村での現地調査のデータを用いて可能な限り多角的な分析を行った結果、多くの特徴が明らかになった。住民の多くは農業に従事しているが、十分な現金収入につながっておらず、ほとんどの農地は小規模である。また、その生産性も低く自家消費分も賄えていないケースも多い。農業の生産性向上のためには、農業用機械の導入や化学肥料を利用する必要もあるが、それができるほどの金銭的余裕がある世帯は多くない。また、仮に機械を購入する資金を得られたとしても、村内・コミューン内の道路が雨季には使用不可能になり導入できないケースも考えられる。

世帯年間収入を元に全世帯を5階層に分けて分析した結果、米作と建設等工業労働の収入の重要性が確認された。最下層と最上層との間の収入格差を農業関連収入と農外収入とに分けて推計すると、農業関連収入に比べ農外収入の開きが大きく、農外収入を大きく得ている世帯ほど上位に属している。出稼ぎ労働者としてタイに出向く世帯メンバーも見られた。しかし、最も低収入層に属する世帯では、世帯主が女性であるケースも多く、家庭を離れて現金収入が見込める職業に就くことができない可能性も高いと考えられる。加えて、世帯収入の高い階層で

は、労働力人口の数も多く、耐久消費財の所有数も多い傾向が見られた。さらに、上位層は若年層における英語習得率も下位層より高く、これが観光業での就職につながることも予想される。借金額については、収入階層との関連性は見られない。突然の病気や怪我により医療費が必要になると、多くの世帯は借金に頼らざるを得ない。しかし、最上層では所有家畜総価値も高く、そのようなショックを回避できる可能性が高い。このように、下位層の世帯は不利な状況に留まっていることが分かる。

所得を向上させることが農村開発の唯一の手段ではないが、農外収入に頼れず農業だけを行っている世帯が自家消費分の米も生産できない、医療費の増大という予想し難いショックにより家計が圧迫されるという脆弱性を考慮すれば、現金収入の向上は重要な課題と指摘できる。農外収入を頼ることができない世帯の場合、米作の生産性向上を目指す必要があるだろう。故に、村だけでなくコミューンや州全体のインフラ整備及び農業技術の向上が必要であり、そのための農民への教育の機会が重要であると考えられる。

シェムリアップ州は観光業の発展が著しい地域であるが、観光地から離れた農村部はその経済効果の恩恵をほとんど受け取れていない。また、プノンペンのように繊維産業の拠点となって工業が発展するといったことも未だ起こっていない。農業が中心であるこの州において、農業従事者の居住する農村の開発は重要であると考えられる。

カンボジアの農村における社会経済状況

参考文献

- 天川直子、2001、「カンボジアにおける国民国家形成と国家の担い手をめぐる紛争」、『カンボジアの復興・開発』、天川直子編、アジア経済研究所、研究双書 No.518、21 - 65 頁。
- 天川直子、2004、「カンボジア農村の収入と就労 - コンボンスプー州の雨季米作村の事例 -」、『カンボジア新時代』、アジア経済研究所、研究双書 No.539、327 - 377 頁。
- 上田広美、岡田知子編著、2012、『カンボジアを知るための 62 章【第 2 版】』、エリア・スタディーズ 56。
- 国際農林業協力協会、1997、『カンボジアの農林業 - 現状と開発の課題 - 1997 年版』、海外農業開発調査研究国別研究シリーズ No. 64、国際農林業協力協会。
- チェンバース、ロバート、1995a、「見えない農村の貧困」、『第三世界の農村開発 貧困の解決 - 私たちにできること』、明石書店、19 - 64 頁。
- チェンバース、ロバート、1995b、「行動に向けて」、『第三世界の農村開発 貧困の解決 - 私たちにできること』、明石書店、353 - 406 頁。
- デルヴェール、J、2002、『カンボジアの農民 - 自然・社会・文化』、及川浩吉訳、風響社。
- 原洋之介、2002、「農村経済」、『開発経済論 第 2 版』、岩波書店、105 - 122 頁。
- 速水佑次郎、1995、「資源の制約を打破するには」、『新版 開発経済学』、創文社、91 - 121 頁。
- 廣畑伸雄、2004、『カンボジア経済入門 市場経済化と貧困削減』、日本評論社。
- ホガート、K. & ブラー、H、1998、「概念」、岡橋秀典訳、『農村開発の論理[上] - グローバリゼーションとロカリティー』、古今書店、9 - 33 頁。
- 丸山庸雄、1992、『アジアを見るジャーナリストの目⑤ キーワードで追うカンボジア紛争増補版』、梨の木舎。
- モリッシュ、M、2000、「農業の改善」、『増補改訂版 第三世界の開発問題』、古今書院、73 - 106 頁。
- Foster, James, Greer, Joel & Thorbecke, Erik. 1984. A Class of Decomposable Poverty Measures. *Econometrica*. Vol. 52, No. 3. pp. 761 - 765.
- International Organization for Migration (IOM). 2011. *Thailand Migration Report 2011 - Migration for development in Thailand: Overview and tools for policymakers*. International Organization for Migration, Thailand Office Bangkok, Thailand.
- Lwin, Maung Maung. 2011. *Investigating Village Socio-economic Condition and Possibility of Poverty Reduction through Sample Survey (The Case of Rattan Handicraft Village of Siem Reap, Cambodia)*. 『海外事情研究』 第 39 巻第 1 号 . 63-86 頁 .

- Lwin, Maung Maung & Morrow, Jeffery. 2013. Generation of Employment and Income through English (The Case of Tourist Industry in Siem Reap, Cambodia). 『熊本学園大学経済論集』 第19巻, 第3・4合併号. 99 - 137 頁.
- Ministry of Planning. 1999. *Cambodia Human Development Report 1999: Village Economy and Development*. Kingdom of Cambodia.
- Ministry of Planning. 2006. *A Poverty Profile of Cambodia 2004*. Royal Government of Cambodia.
- Ministry of Planning. 2013. *Poverty in Cambodia - A New Approach Redefining the poverty line-*. Royal Government of Cambodia. Phnom Penh.
- Ministry of Planning & United Nations Development Programme. 1997. *Cambodia Human Development Report 1997*. Royal Government of Cambodia. Phnom Penh.
- National Institute of Statistics & Ministry of Planning. 2008. *General Population Census of Cambodia 2008 - Provisional Population Totals-*. Phnom Penh, Cambodia.
- National Institute of Statistics & Ministry of Planning. 2009. *General Population Census of Cambodia 2008 - National Report on Final Census Results-*. Phnom Penh, Cambodia.
- National Institute of Statistics & Ministry of Planning. 2010. *Cambodia Socio-Economic Survey 2009*. Phnom Penh, Cambodia.
- National Institute of Statistics & Ministry of Planning. 2011. *Statistical Yearbook of Cambodia 2011*. Phnom Penh, Cambodia.
- United Nations Development Programme. 2013. *Human Development Report 2013 -The Rise of the South: Human Progress in a Diverse World-*. United Nations Development Programme.
- World Bank. 2006. *Cambodia Halving Poverty by 2015? Poverty Assessment 2006*. World Bank.
- World Bank. 2009. *Poverty profile and trends in Cambodia, 2007 -Findings from the Cambodia Socio-Economic Survey (CSES)-*. Poverty Reduction and Economic Management Sector Unit East Asia and Pacific Region.
- Yamakawa, Takahiro. 2011. *Extent of Poverty Its Challenges: Survey Result & Policy Suggestions -The Case of Some Selected Villages in Siem Reap, Cambodia-*. AURCED Discussion Paper. Angkor University Research Center for Economic Development.
- Yamakawa, Takahiro. 2012. *Investigating the Socio-economic Condition of Rural Cambodia -The Case of Bra Youth Village, Siem Reap-*. AURCED Discussion Paper. Angkor University Research Center for Economic Development.

カンボジアの農村における社会経済状況

白地図、世界地図、日本地図が無料【白地図専門店】

<http://www.freemap.jp/>（2012 年 5 月 31 日）。

山 川 貴 裕

付録

タットレイ村用質問票

カンボジアの農村における社会経済状況

Investigating Socio-economic Condition of Tatray Village,
Preah Dak Commune, Banteay Srey Distric, Siem Reap, Cambodia
(Possibility of Poverty Reduction through Social Business)
(September 3rd to 5th, 2012)

Dr. Maung Maung Lwin

Mr. Yun Linne

Mr. Takahiro Yamakawa

Ms. Saki Okubo

Interviewer : () Interview time : (2012/9/) Household number : ()

1. Total number of household member () persons

2. Interviewee name ()

3. Family structure (all the members who live together in this house).

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	H	RHL	Sex	Age	Marital status	Occupation or Grade(student)	Educational background	Literacy	Relationship
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(M F)		(S M W D)		Graduated(0・K・P・JH・H・U・GS) Dropout(P()・JH()・H())	(K E)	
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(M F)		(S M W D)		Graduated(0・K・P・JH・H・U・GS) Dropout(P()・JH()・H())	(K E)	
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(M F)		(S M W D)		Graduated(0・K・P・JH・H・U・GS) Dropout(P()・JH()・H())	(K E)	
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(M F)		(S M W D)		Graduated(0・K・P・JH・H・U・GS) Dropout(P()・JH()・H())	(K E)	
5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(M F)		(S M W D)		Graduated(0・K・P・JH・H・U・GS) Dropout(P()・JH()・H())	(K E)	
6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(M F)		(S M W D)		Graduated(0・K・P・JH・H・U・GS) Dropout(P()・JH()・H())	(K E)	
7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(M F)		(S M W D)		Graduated(0・K・P・JH・H・U・GS) Dropout(P()・JH()・H())	(K E)	
8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(M F)		(S M W D)		Graduated(0・K・P・JH・H・U・GS) Dropout(P()・JH()・H())	(K E)	

Note: ①"I" is Interviewee. ② and ③, Check the applicable box. "H" is Household head, "RHL" is Rattan handicraft leader. ⑥"S" is Single, "M" is Married, "W" is Widowed, "D" is Divorced. ⑦Occupation. For example, "Handicraft", "Farmer", "Plantation", "Police", "Public office", "Army", "Bike taxi driver", "Tuk Tuk driver", "Souvenir shop", "Fresh market", "Hired servant", "Staff of an office", "Teacher" (Primary, Junior high school, High school, University), etc. Grade (student). For example, second year of junior high school student is "JH2". ⑧"0" is No education, "K" is Kindergarten or before entering primary school, "P" is Primary school, "JH" is Junior high school, "H" is High school, "U" is University, "GS" is Graduated school. ⑨circle the applicable item, "Literacy" include Reading and Writing. "K" is Khmer, "E" is English. ⑩"Relationship" is relationship with interviewee.

4. How many children do you have? (The question for only the women who have birth experience)

① No.	② Total number of children	③ The number of the children who died < 1	④ The number of the children who died < 5
	Total() H() MW() TMW()	H() MW() TMW()	H() MW() TMW()
	Total() H() MW() TMW()	H() MW() TMW()	H() MW() TMW()
	Total() H() MW() TMW()	H() MW() TMW()	H() MW() TMW()
	Total() H() MW() TMW()	H() MW() TMW()	H() MW() TMW()
	Total() H() MW() TMW()	H() MW() TMW()	H() MW() TMW()

Note: ①“No.” is the same as number of question 3. ②“Total” is Total number of her children, “H” is the children were born in the hospital, “MW” means the delivery with a midwife's help (with medical qualification) in the house, “TMW” means the delivery with a midwife's help (without medical qualification) in the house.

5. Death

Is there any person who died before 40 years old in your family?

☐ No ☐ Yes () Persons

6. Family income (Income per month). (This occupation is same as question 3).

	Occupation	Average Monthly Income
1		() <input type="checkbox"/> Riel / <input type="checkbox"/> Dollars
2		() <input type="checkbox"/> Riel / <input type="checkbox"/> Dollars
3		() <input type="checkbox"/> Riel / <input type="checkbox"/> Dollars
4		() <input type="checkbox"/> Riel / <input type="checkbox"/> Dollars
Total Family Income		() <input type="checkbox"/> Riel / <input type="checkbox"/> Dollars

Note: If there is more than one person who have same occupation, please put the total amount of income.

7. Structure of household consumption during the past one week (7 days)

Total Food: () Riel
 Total Non-food: () Riel
 Fire wood: () Riel Feed for livestock: () Riel
 Gas: () Riel Water service: () Riel
 Electricity: () Riel Battery: () Riel
 Tobacco: () Riel Kerosene: () Riel
 Charcoal: () Riel Other: () Riel
 Candle: () Riel Other: () Riel

8. How many times do you take meal a day?

() Times ☐ Breakfast ☐ Lunch ☐ Dinner

カンボジアの農村における社会経済状況

9. How much do you spend for children's education in household for one year?

() Dollars

10. How much do you spend the family clothes, shoes etc. in one year?

() Dollars

11. How much do you spend for family medical care (medicine, hospital etc.) in one year?

() Dollars

12. How much do you save per month?

() ☐ Riel / ☐ Dollars Total saving () ☐ Riel / ☐ Dollars

13. Debt

() ☐ Riel / ☐ Dollars Since when (/) year / month

Utilization purpose

()

(☐ Bank ☐ Micro-credit ☐ Informal money lender ☐ Others)

14. House

☐ Own house ☐ Rental house Rental fee () ☐ Riel/☐ Dollars /year

15. Do you own a land for cultivation?

Own land () m²

Rental land () m² Rental fee () ☐ Riel/☐ Dollars /year

16. How do you use the land?

Rice	() kg/year	if you sell () kg() \$/year
Vegetable	() () kg/year	if you sell () kg() \$/year
and Fruits	() () kg/year	if you sell () kg() \$/year
	() () kg/year	if you sell () kg() \$/year
	() () kg/year	if you sell () kg() \$/year

17. Do you have livestock? Livestock values

(☐P ☐Co ☐B ☐Ch ☐D : head) () ☐ Riel/☐ Dollars / head

(☐P ☐Co ☐B ☐Ch ☐D : head) () ☐ Riel/☐ Dollars / head

(☐P ☐Co ☐B ☐Ch ☐D : head) () ☐ Riel/☐ Dollars / head

(☐P ☐Co ☐B ☐Ch ☐D : head) () ☐ Riel/☐ Dollars / head

Note: "P" is Pig, "Co" is Cow, "B" is Buffalo, "Ch" is Chicken and "D" is Duck.

18. Toilet

☐ No ☐ Yes

19. Sources of News and Information

☐TV ☐Radio ☐Internet ☐Newspaper(/one week) ☐Other () ☐Nothing

20. What kind of durable goods do you have?

☐ TV () ☐ Radio () ☐ Refrigerator () ☐ Washing machine ()

☐ Bicycle () ☐ Bike () ☐ Car () ☐ Computer ()

☐ Cellular telephone ()

21. Water for cooking

☐ Water supply ☐ Well ☐ River ☐ Hand pump well ☐ Buy water

山 川 貴 裕

Following Questions are for Rattan Handicraft Leader in Family.

22. General information

22-1. Born and grown up in this village

☐ Yes ☐ No (Province name: _____)

22-2. Do you have previous job?

☐ No ☐ Yes (Job name: _____) Monthly income (_____) Riel

23. Experience and Skill

Experience of producing RH	(_____) <input type="checkbox"/> Year / <input type="checkbox"/> Months			
Number of types of RH	(_____) Products			
	1) _____	2) _____	3) _____	4) _____
Minimum & Maxmum values of RH	Cheapest	(_____) <input type="checkbox"/> Riel / <input type="checkbox"/> Dollars		
	Most expensive	(_____) <input type="checkbox"/> Riel / <input type="checkbox"/> Dollars		
How many hours or days do you spend?	Cheapest	(_____) <input type="checkbox"/> Hours / <input type="checkbox"/> Days		
	Most expensive	(_____) <input type="checkbox"/> Hours / <input type="checkbox"/> Days		
If you have the new RH design, can you produce?	<input type="checkbox"/> Yes / <input type="checkbox"/> No			

24. Willingness to Take RH Training

① Would you like to take training?

☐ No ☐ Yes How many hours a day? (_____) Hours
How many days a week? (_____) Days

② Would you like to send your children of age around 15 for training?

☐ No ☐ Yes How many hours a day? (_____) Hours
How many days a week? (_____) Days

③ If you have opportunity, do you want to work in RH cottage industry near your village?

☐ No ☐ Yes

25. Income

① Main income from RH

Average monthly income: (_____) ☐ Riel / ☐ Dollars

② Is income stable?

☐ No ☐ Yes

③ Do you produce RH only?

☐ No ☐ Yes Reason ☐ No land
☐ Better than growing crops
☐ Does not have other job
☐ Other (_____)

カンボジアの農村における社会経済状況

26. Working Time

① How long do you work?

() Hours / day

() Days / week

() Days / month

② How many days per month do you work for other jobs?

() Days / month Monthly income () Dollars

27. Production Decision, Seasonal Variation and Pricing

① Production decision for quality and type of product

- ☐ At own pace ☐ Based on order quantity ☐ Based on price ☐ Based on weather
☐ Based on available raw rattan ☐ Based on other factors ()

② Seasonal variation in production

Best season	Reason	Worst season	Reason
<input type="checkbox"/> Dry season <input type="checkbox"/> Rainy season <input type="checkbox"/> Months ()	<input type="checkbox"/> Good demand <input type="checkbox"/> Easy to get raw rattan <input type="checkbox"/> Other ()	<input type="checkbox"/> Dry season <input type="checkbox"/> Rainy season <input type="checkbox"/> Months ()	<input type="checkbox"/> Bad weather <input type="checkbox"/> Lack of demand <input type="checkbox"/> Lack of raw rattan <input type="checkbox"/> Other ()

③ Price decision

- ☐ Based on required raw material
☐ Based on the price paid by middleman
☐ Based on the prices in Siem Reap city

28. Raw Material: Labor, Cost and Seasonal Variation

28-1. Labor hour and cost

- ① Require hour for cutting rattan and carrying rattan () Hours
 ② Required number of people for cutting and carrying rattan () Person
 ③ How much do you spent for cutting rattan? () Dollars
 ④ How much did you pay for rattan bush owner? () Dollars
 ⑤ Estimated distance from rattan bush to the village () Kilometer
 ⑥ How much do you pay for carrying rattan to the village? () Dollars
 ⑦ How much times a month do you cut raw rattan? () Times

28-2. Raw rattan reserve

- ☐ Plenty ☐ Just enough ☐ No enough ☐ Going to face rattan shortage soon

28-3. Do you buy raw rattan?

- ☐ No ☐ Yes How much do you spent: ☐ For bundle () ☐ Riel / ☐ Dollars
☐ By pieces () ☐ Riel / ☐ Dollars

28-4. Seasonal variation in rattan raw material

Best season

☐ Dry season ☐ Rainy season ☐ Months ()

Moderate season

☐ Dry season ☐ Rainy season ☐ Months ()

Worst season

☐ Dry season ☐ Rainy season ☐ Months ()

29. Demand potential

	Sale value per month	Demand season
① Maximum Demand	() <input type="checkbox"/> Riel / <input type="checkbox"/> Dollars	<input type="checkbox"/> Dry season <input type="checkbox"/> Rainy season <input type="checkbox"/> Months ()
② Minimum Demand	() <input type="checkbox"/> Riel / <input type="checkbox"/> Dollars	<input type="checkbox"/> Dry season <input type="checkbox"/> Rainy season <input type="checkbox"/> Months ()

30. Change in RH price trend and price differential

30-1. Trend

RH prices are ☐ increasing compare to last 2 - 3 years ago
☐ declining compare to last 2 - 3 years ago
☐ not change too much compare to last 2 - 3 years ago

30-2. General prices differential (Example:)

☐ Retail village price(☐ Riel / ☐ Dollars) ☐ Middle man price(☐ Riel / ☐ Dollars)
☐ Market price(☐ Riel / ☐ Dollars) ☐ Wholesale price(☐ Riel / ☐ Dollars)

31. Supply potential

31-1. Do you have enough capacity to response market demand?

☐ No ☐ Yes Do you have enough time to produce more? ☐ No ☐ Yes
 Do you have enough raw rattan to produce more? ☐ No ☐ Yes
 Do you have enough labor to produce more? ☐ No ☐ Yes

31-2. Do you have enough capacity to response the increase in market demand

☐ Yes ☐ No If no:

☐ Do not have time

☐ Do not have enough raw rattan

☐ Do not have enough labor

☐ Other problem (①)

(②)

(③)

Memo:

Summary

A Study on Socioeconomic Condition in Rural Cambodia

~The Case of Tatray Village, Siem Reap Provinc

Siem Reap, a province of northwestern part of Cambodia, which occupies World Heritage Angkor Monument has become a famous tourist hub city of Indochina Region. But, majority of its people make their living in rural Siem Reap and more than half of them are still under poverty. In order to verify the real social and economic conditions of rural Siem Reap, we conducted a complete survey work in Tatray Village. This has five sections. Section (1) explains the general features of Siem Reap province and the nature of village poverty. Section (2) provides the literature review and section (3) discusses the questionnaire design and limitations of survey works. Analysis of data and research findings are given in section (4) and (5) respectively. A summary of findings is as follows.

As in other villages of Siem Reap province, the main economic activity of Tatray village is rice growing. Although rice cropping plays an important role, the majority of village households can hardly earn the enough cash income for daily living. The households which have working age family members could earn additional income mainly from off-farm income of migrant workers. The families which manage by women household head and do not have working age family members are generally poor. In order to verify the social and economic condition of the village people, we attempted to collect the data from both sides of income and expenditure. Our survey results could inform that high income families which have off-farm income could spend more on children education including learning English, clothing and durable household goods. The households which have less income are mainly due to low productivity, small farm size, and lack of off-farm income.

Accordingly, provision of new farming technique together with fertilizer, insecticide, high quality seeds and appropriate micro credit for improving agriculture productivity, implementing rural development projects covering physical and social infrastructures, and generating non-farm employment and income opportunities for village poor are suggested.